

14.2a  
109



始



344  
377<sub>1</sub>

神戸市五業概況



神戸市工業概況

神戸市役所



## 緒言

客年來本市工業の状態を調査し之れを刊行頒布するに  
二回、今又茲に大正二年中の事實を増訂し、第三回を刊行す  
るに至れり。惟ふに工業の振否は都市の盛衰に至大の關係  
を有す、是れ近來各市に於て工業を奨励するもの漸く多き  
を加ふるの傾向ある所以なり。本市の如き、由來貿易港とし  
て名を知らるゝを以て、工業の如きは微々見るべきなしと  
思惟せるもの尠きにあらざるも、今や工産物は年額八千萬  
圓を超へ、尙年々増進して已まざるものあり、本市發展の急  
激なる、豈是等に負ふ所なしとせんや。然れども仔細に其内

容を察するに、其大部分は未だ幼稚の域を脱せずして、改善すべきもの尙尠なからざるなり。茲に調査の結果を公表し、將來の發展に資せんごする、強ち無用の業にあらざるべし

大正三年十月

神戸市長 鹿島房次郎

### 例言

- 一、本書は本市工業の状態を表示するを以て目的とし神戸港貨物集散概況と相俟ちて本市に於ける集散と需給の關係を知るの便に供せんとす
- 一、本書所載の事項は明治四十二年農商務省令第五十九號工場統計及縣令に基く工場票に依り大正二年一月より同年十二月末日に至る一箇年間の事實及び大正二年十二月末日現在とす
- 一、本書中職工と記せるは職工及徒弟其他作業に従事せるものにして平常就業する一日平均数とす
- 一、本書中工産物は工場票によりて調査せしも更に組合に於ける調査を參酌したるものあり

一工場明細表には就業者五人以上又は原動力を使用するものゝみを輯録し  
たり

大正三年十月

編者

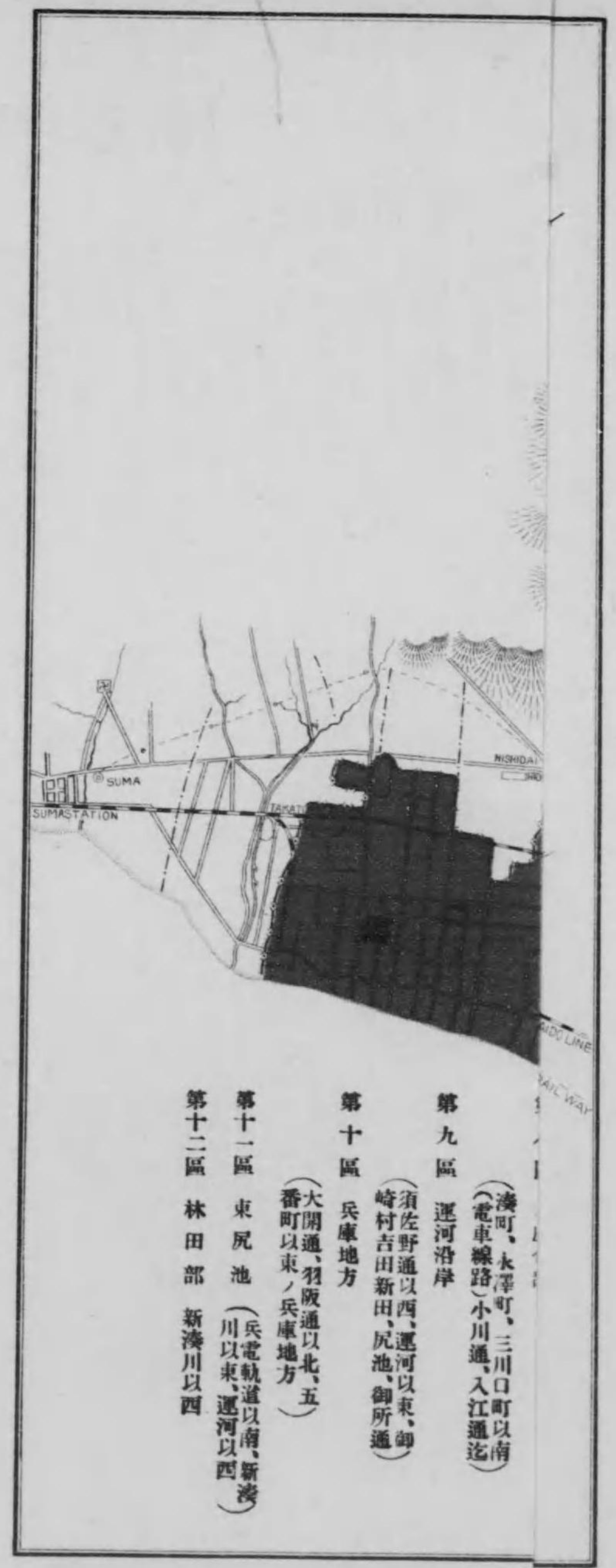
主事 川島 右次

### 神戸市工業概況目次

第一章	總説	一頁
第二章	交通及運輸	三
一	概説	三
二	海運	四
三	陸運	五
四	運輸貨物噸量	六
第三章	工業發達の趨勢	九
第四章	工業の現況	二〇
一	工場と職工	二〇
二	工場と動力	三四
三	石炭	三九
四	工業産物	五〇

第五章	工場の分布	五七
第六章	将来の大勢	六九
第七章	工業會社	七八
附表	神戸市工場明細表	八五
一	染織工業	八五
二	機械工業	八七
三	化學工業	九四
四	飲食物工業	一〇一
五	雜工業	一〇六
六	特別工業	一二六
七	官立工業	一二七
八	工業會社	一二七

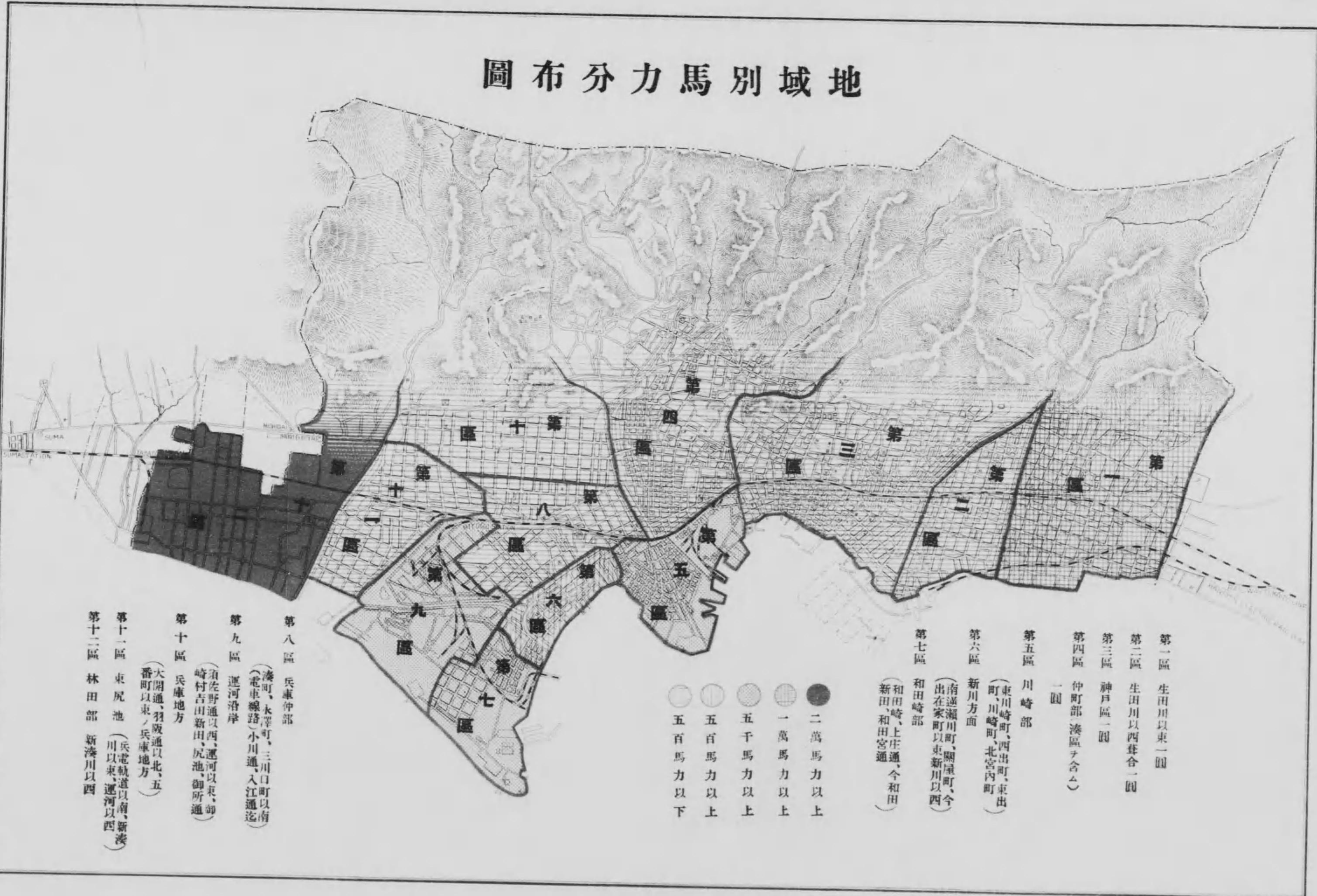
目次(終)



兵庫

目次(終)

# 地 域 別 馬 力 分 布 圖



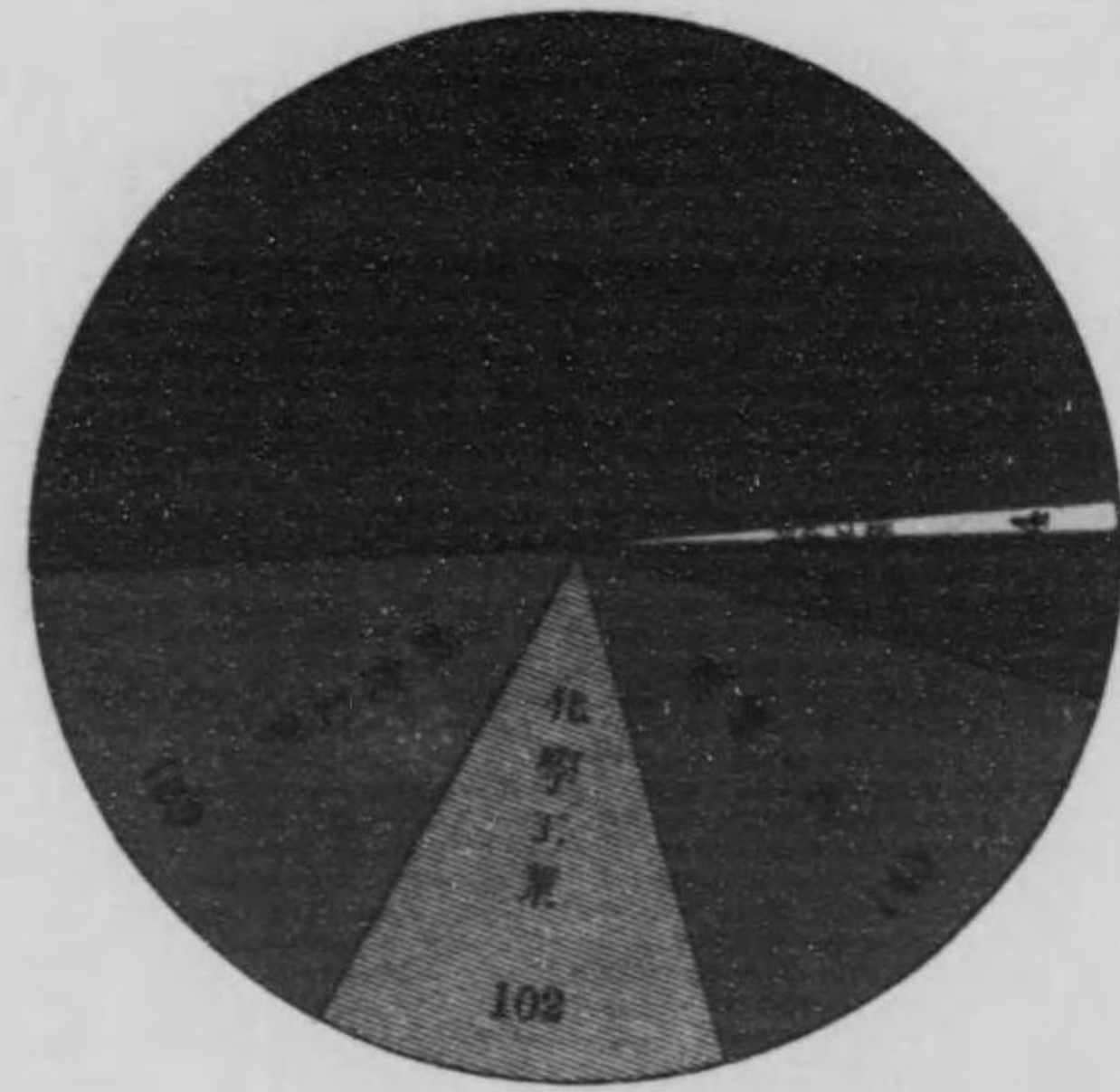
- 二萬馬力以上
  - 一萬馬力以上
  - 五千馬力以上
  - 五百馬力以上
  - 五百馬力以下
- 第一區 生田川以東一圓
- 第二區 生田川以西合一圓
- 第三區 神戶區一圓
- 第四區 仲町部(湊區ヲ含ム)一圓
- 第五區 川崎部
- 第六區 (東川崎町, 西出町, 東出町, 川崎町, 北宮内町) 新川方面
- 第七區 (南瀨瀬川町, 關原町, 今出町, 新川方面) 出在家町以東, 新川以西
- 第八區 (和崎, 上庄通, 今和田, 新田, 和田宮通)
- 第九區 兵庫仲部
- 第十區 (淺河, 水澤町, 三川口町以南) (電車線路) 小川通, 入江通迄
- 第十一區 (須佐野通以西, 運河以東, 御崎村, 吉田新田, 尻池, 御所通)
- 第十二區 兵庫地方
- (大開通, 羽波通以北, 五番町以東, 兵庫地方)
- 第十一區 東尻池 (兵電軌道以南, 新湊川以東, 運河以西)
- 第十二區 林田部 新湊川以西



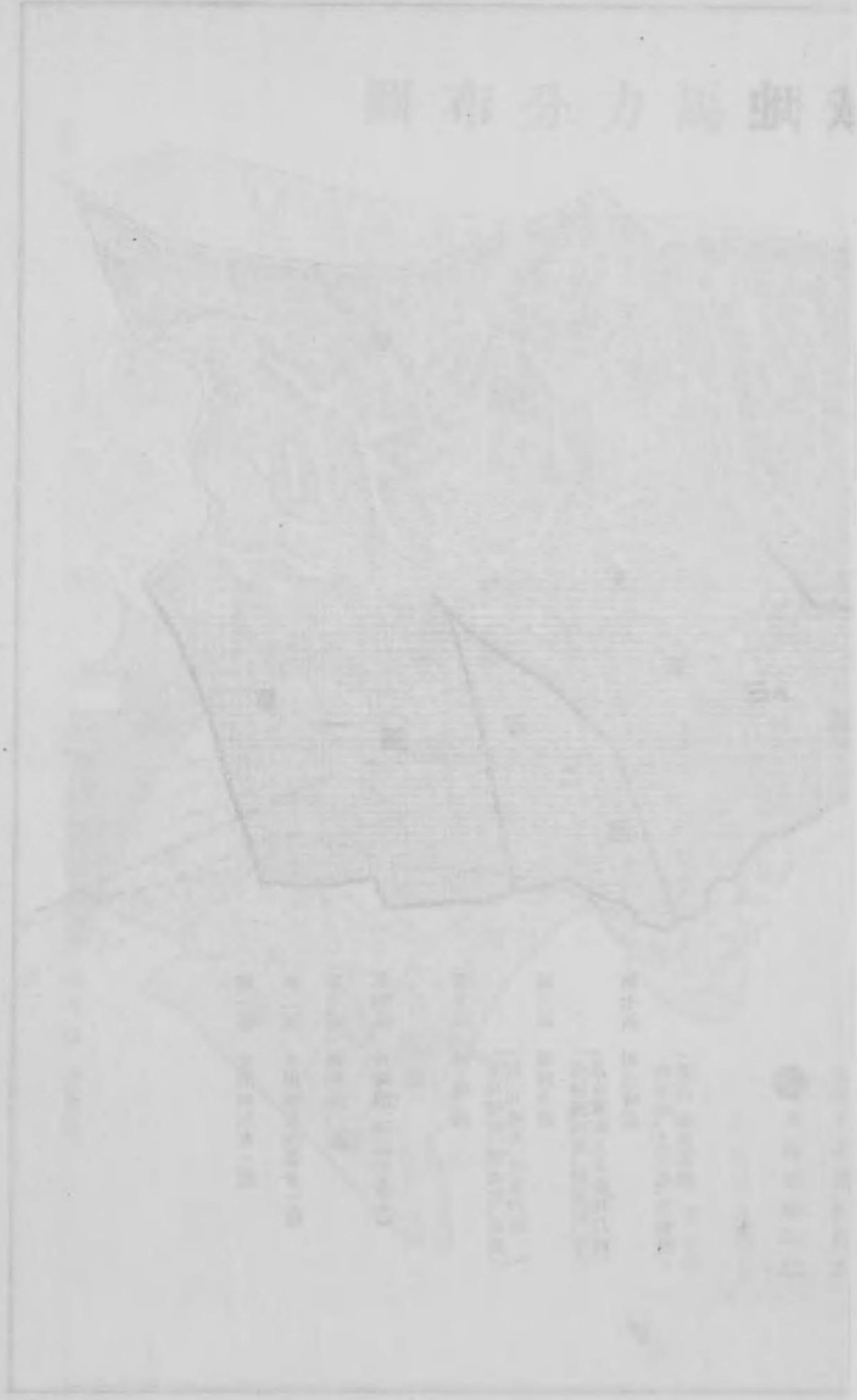
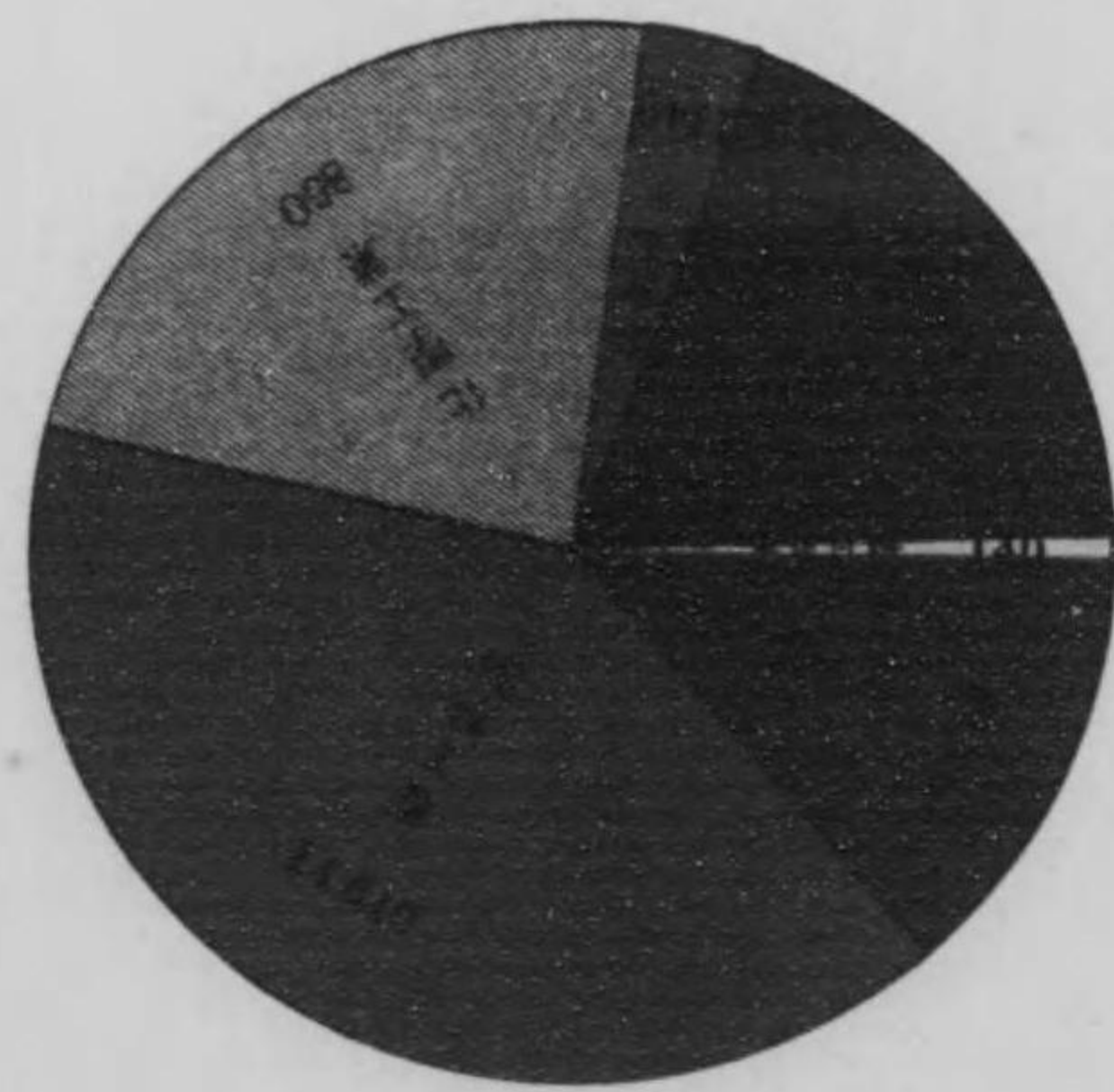
# 工職及場工別種類

在現日末月二十年二正大

## 場 工



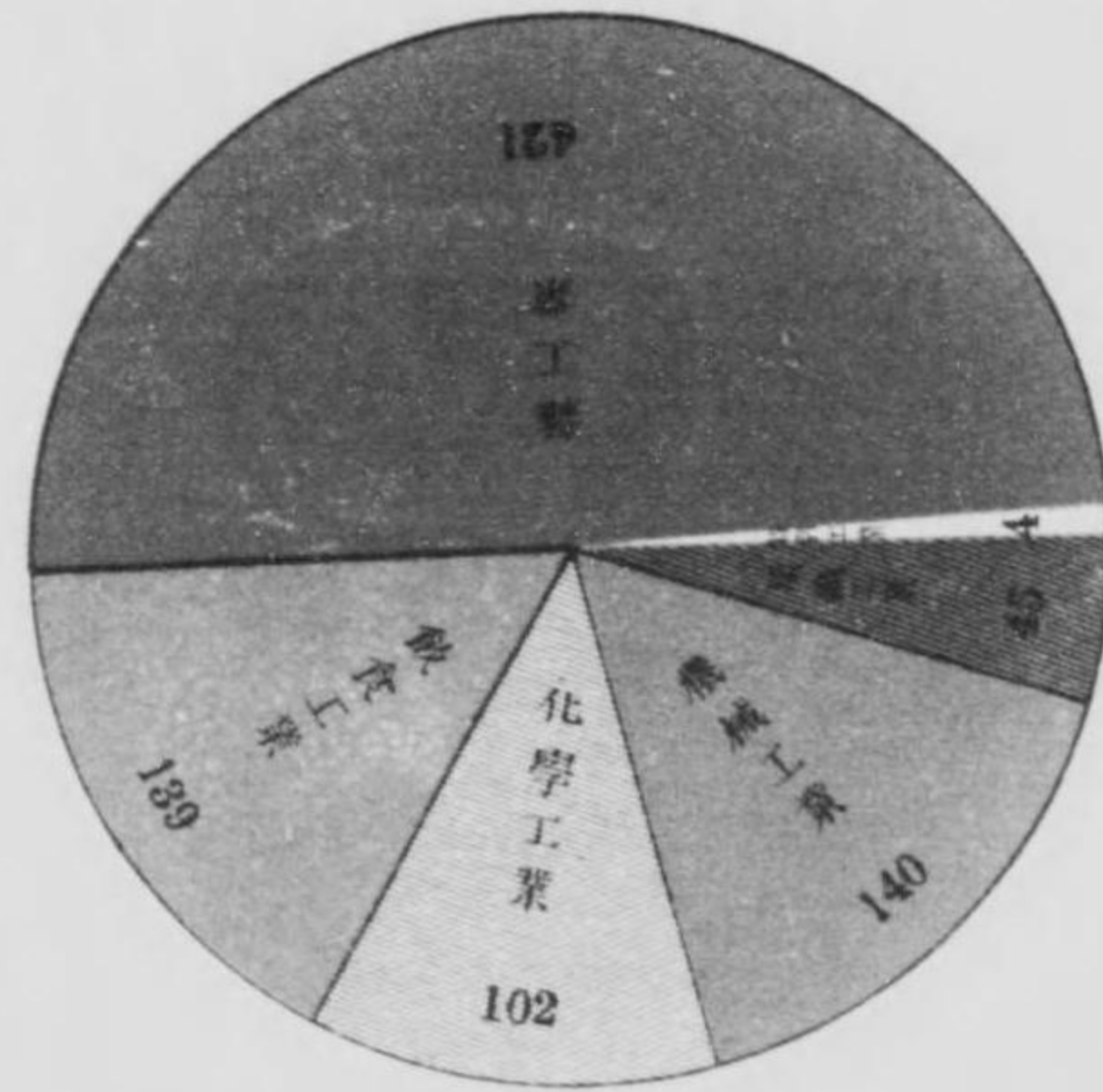
## 工 職



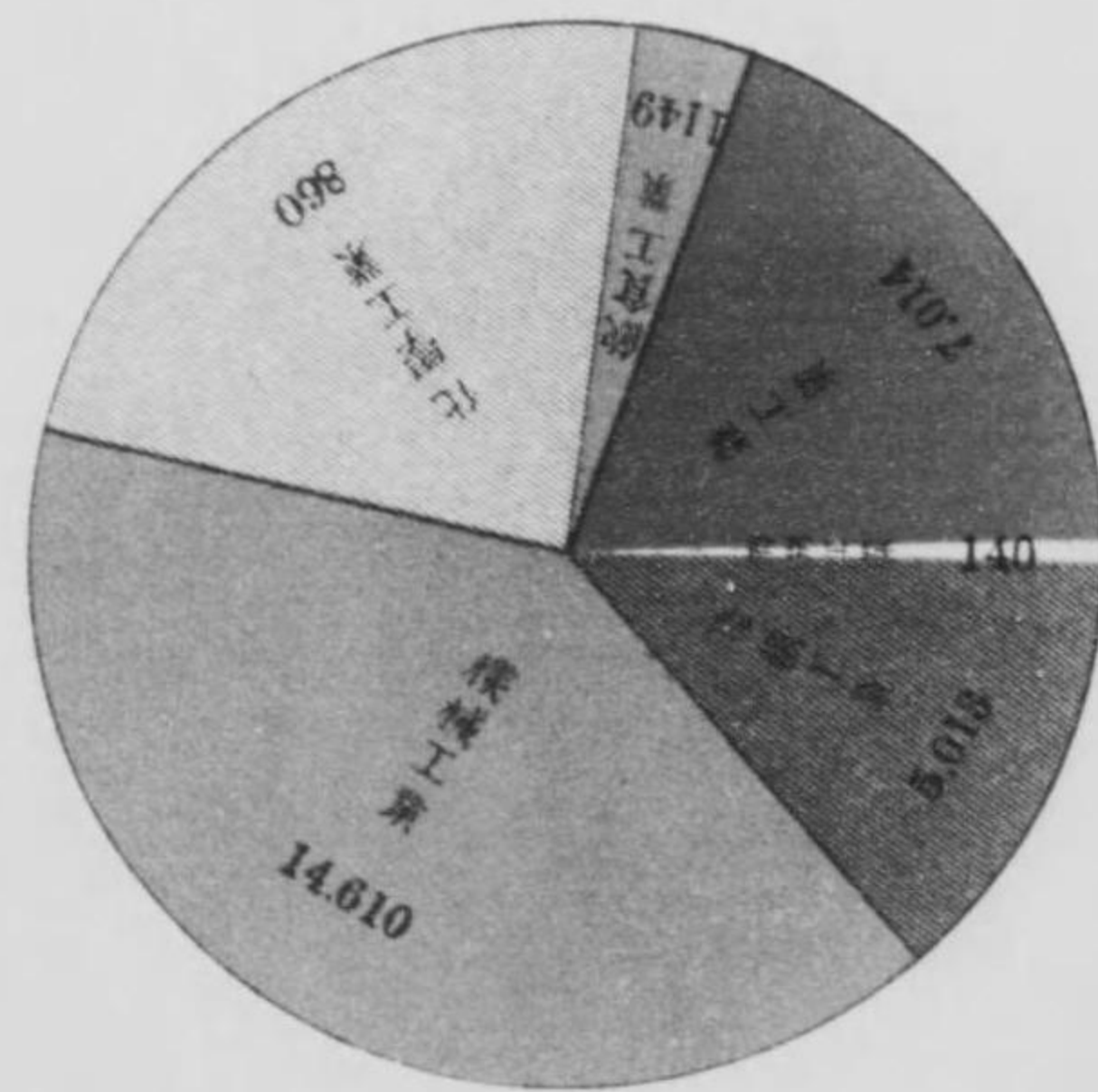
# 工 職 及 場 工 別 類 種

在 現 日 末 月 二 十 年 二 正 大

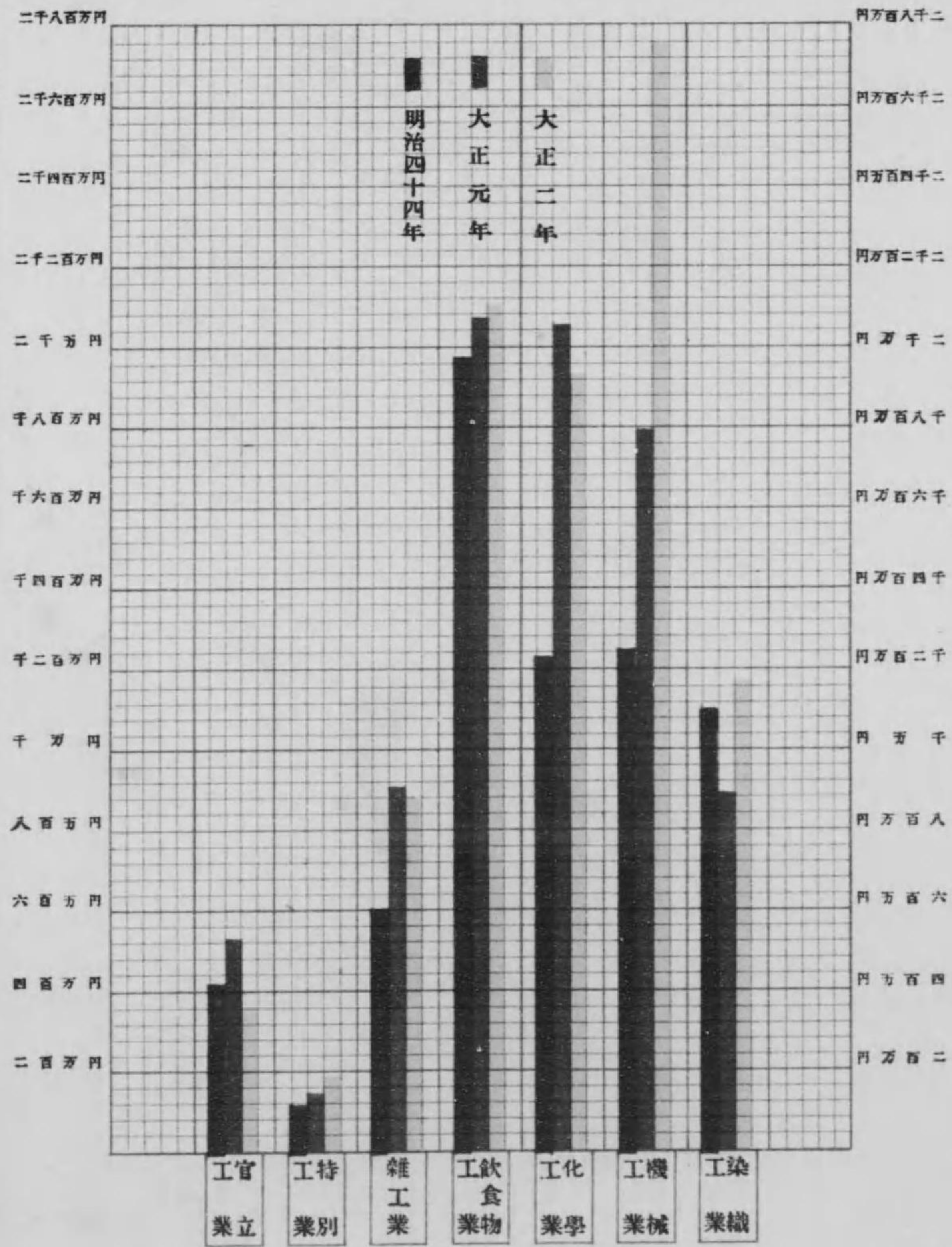
## 場 工



## 工 職



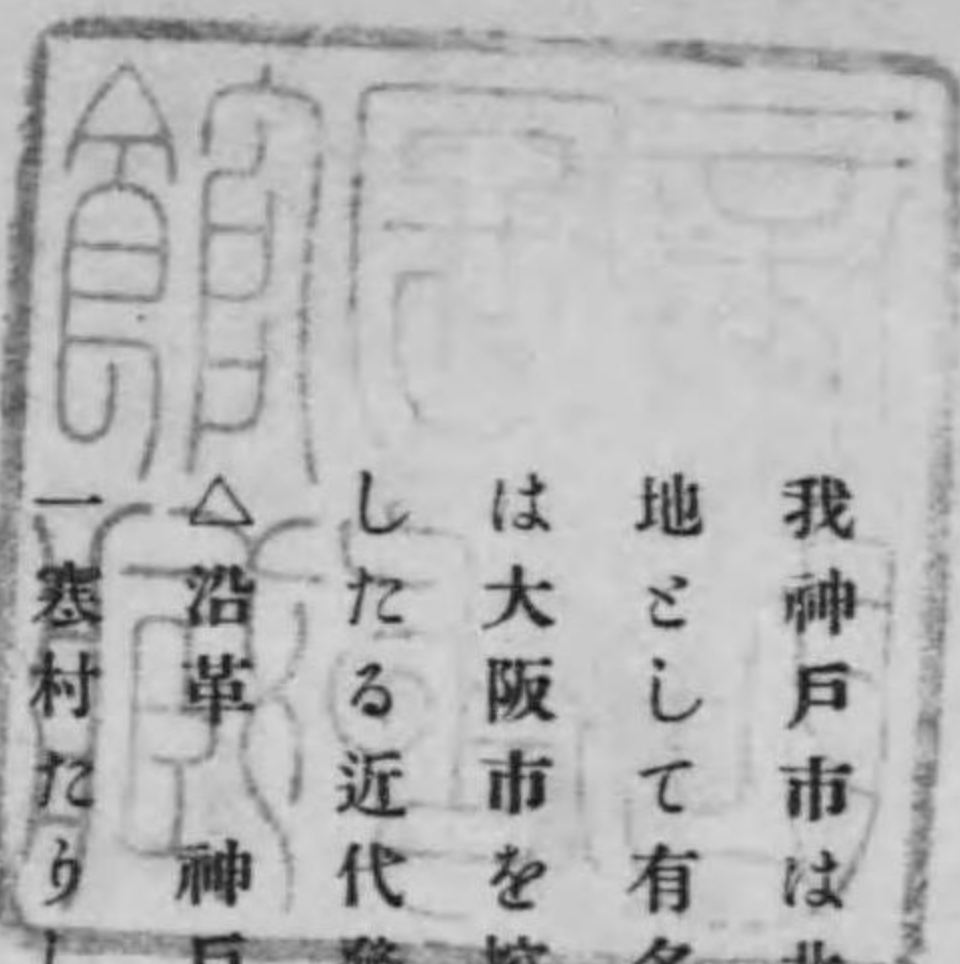
# 表年累額産工別類種



# 神戸市工業概況

## 第一章 總 說

我神戸市は北緯三十四度四十一分東經百三十五度十一分に位し北は東洋の避暑地として有名なる六甲連峰の支脈を限り南は風光明媚なる瀬戸内海に臨み東には大阪市を控へ且つ舊都たる京都市に近く西には天然の公園たる須磨舞子に接したる近代發達の大都會とす



△沿革 神戸市は古來關西の市場として維新前既に發達したる兵庫と維新前迄一塞村たりし神戸との二部より成る兵庫は遠く天平の昔(約千八百八十年前)に於て大輪田泊として當時既に名を知られ後源平時代に兵庫港修築の事あり治承四年(約七百三十五年前)平清盛に依りて選定せられたる福原の都は即ち兵庫にして遷都後一箇年諸般の設備未だ成らざるに直ちに舊都とはなれり其後兵庫の盛衰は一張一弛の大勢を免れざりしも豊臣氏大阪城を築きたる以來百貨輻輳の盛を見

るに至り爾來國運の進歩に伴ひて益其勢を加へ寶永年間には町數四十四箇町に達し百貨輻輳の巷となり爾來三百年間米穀肥料の集散地として全國の米穀肥料は其大部分を兵庫に於て取引せらるゝ盛況を呈し兵庫に於ける價格の高低は即ち全國に於ける取引の標準として用ひらるゝに至れり

神戸は維新前に在りては中國街道に沿へる走水二ツ茶屋及び神戸の三村落にして戸數僅々千戸に満たざる寒村なりしが慶應三年十二月七日兵庫開港と共に外國人居留地運上所倉庫等を設けらるゝに及び稍市街の觀を呈するに至り明治元年神戸町と改稱し港を神戸港と稱したり明治十一年郡區町村編成發布と共に初めて兵庫と合併して神戸區と稱し同十二年四月神戸市となれり明治二十九年附近の村落を市に編入して以て現今の區域に擴大したり

斯の如く神戸市の古來商業都市として發達したるは位置の適當なると港灣の良好なるに基くものにして維新以來急激に發展したるは全く世運の進歩に伴ふものとす今や神戸港は東洋の關門として内外交通の要衝に當り百貨輻輳し取引の殷盛なる亦驚くべきものあり加之築港の事業は陸上設備と防波堤を除き他は殆

んど竣工せんとするあり之と同時に海陸の連絡完成するに至らば東洋に於ける貿易港として上海を凌駕する亦遠きにあらざるべし

△面積 神戸市は東西二里七町餘南北一里餘にして面積二方里三九とす

△人口 明治二十二年末に於ける人口は十三萬四千餘戸數三萬三千餘に過ぎざりしが大正二年末に於ける人口四十四萬七千六百六十六戸數十萬二千四百二十一戸に増加したり

△在留外人 在留外人の數は總て三千五百六十六人にして内支那人最も多く二千三百六十二人を算し英國人五百二十二人獨逸人二百十六人之れに次ぎ北米合衆國人百三十五人葡萄牙人七十五人佛蘭西人六十五人印度人四十三人丁抹人二十五人和蘭人二十三人及其他十五箇國あり

## 第二章 交通及運輸

### 一、概 說

交通運輸の便否は都市の盛衰に至大の關係を有す殊に工業地としては原料及び

製品の集散と交通運輸に竣つ所極めて大なり神戸市が地位上海運の便優秀を占めたるに因りて發達したるは既に述べたるが如し陸上交通に在りては往古より中國街道の要衝を占め海陸共に全国各地の聯絡頗る至便なるものありき鐵道の敷設せらるゝに及びては山陽東海二線の東西に貫通するあり海外航路の開くるに至りては其の基點を神戸港に置くもの漸次増加し又築港工事は大正五年を以て竣工すべく是等の設備は貿易の發達と相俟て遺憾なかるべければ神戸市の將來は豫め測り知るべからざるものあり

由來本市は貿易港として發達し全國三十六の開港場中首位を占め横濱港と對立の貿易額を有し殊に輸入に於ては遙かに横濱を凌駕して全國第一とす蓋し貿易の發達は國內工業の發達に伴ふて増進するものなれば將來に於て工業發達の見込ある地方の開港場は益々貿易の増進を示すべきは敢て言を俟たざるべし

### 二、海 運

大正二年中に於て神戸港に出入したる船舶は一萬四千五百五十一隻にて搭載貨物五百九十七萬六千餘噸の多きに上れり左に最近三箇年間の狀況を表示すべし

出入船舶累年表

年	内 國		外 國		合 計
	出	入	出	入	
四十四年	二七五三	二九七三	二五〇〇	五七四三〇	一四、五五〇
大正元年	二六三三	四八三三七	二四〇六	五、六九六	一四、四二一
大正二年	二七四九	四〇、五三〇	二、五七〇	六、三九六	一四、三九三
	二六九八	四九、二六三	二、八三三	七、二一〇	一四、五六一
	二八三九	五二、六三四	三、二六六	六、七三三	一四、五〇九
					一三、〇〇八

### 三、陸 運

陸上交通機關たる鐵道は東は東海道線西は山陽線の基點にして山陰線との連絡は西は姫路東は神崎に於て聯絡の便あり神戸大阪間の開通したるは實に明治七年五月とす

市内には既に延長八哩三十六鎖の鐵道あり大正二年中市内各驛の取扱に屬する旅客乗降總數六百六十七萬五千六百四十七人にして貨物の發着噸數九十三萬六千二十三噸とす其詳細左表の如し

大正元年	乗客		貨物	
	車	降	送	到
三、二〇〇、二八二	三、二〇二、七二八	五、四二、五七六	三、八六、三〇六	三、八六、三〇六
計				
三野濱	三、三三〇、二三三	三、三三五、四一四	五、六九、二四七	三、六六、七七六
小計				
神宮	七四一、二一四	六九三、五六九	二、八六、九	四、八六、二
兵庫	一、二七一、四〇三	一、三三三、八三八	二、〇〇、一三一	一、四六、七五四
鹿取	九一〇、四四三	九一九、六〇九	七九、一一一	九二、四九〇
鐘紡	一五一、一八一	一五五、四六〇	一一、四一八	二八、六二七
和田	四〇、八三三	三六、九三五		
新田	二二五、一六一	二一六、〇〇三	一三六、一六二	九、〇二六
和川			六四、四九〇	四〇、二八二
新野			七五、〇六六	四四、七三五
小計			五六九、二四七	三六六、七七六
大計			五、四二、五七六	三、八六、三〇六

### 四、運輸貨物噸量

神戸港に於ける集散貨物の總噸量は六百九十一萬二千八百〇一噸にして到着三百九十四萬一千十七噸發送二百九十七萬一千七百八十四噸とす之れを前年に比するに到着に於ては五十三萬三千三十六噸を減せるも發送に於ては四十萬五千六百五十三噸を増加せるを以て合計に於て差引十二萬四千六百八十三噸を減少

せり而して之れが内容を見るに發送に於ては外國貿易十萬五千七百七噸沿岸貿易二十七萬三千八百七十五噸陸運二萬六千六百七十一噸何れも増加するに反し到着に於ては外國貿易のみ二千二十九噸を増加するも沿岸貿易に於て五十一萬二千八百三十五噸陸運一萬九千五百三十噸を減じたり之れ一應奇異の感なき能はずと雖も要するに吾が神戸市の工業着々として興隆を見るに至りたる結果市内消費の物資は是等工産物を以て補供するに至りたるに仲次貿易に於て人造肥料の八萬一千七百七噸木材に於て十三萬五千三百九十八噸紡績絲に於て一萬五千九百二十四噸を減少したるに基因するものにして其他の貨物は全體總てに於て増加を示せり而して是等の貨物は單に神戸港を通過する一部のものを除き其大部分は精製品又は粗製品として輸出せらるゝものとする是等の加工は即ち神戸市の工業にして本市の貿易額が逐年堅實なる發達をなしつゝあるものは即ち工業の隆盛なる發達を遂げつゝあることを證するものにして到着貨物に於て一部の減少を來したるは些も意とするに足らず發送に於ては小粉麥、砂糖、種油、粕、人造肥料、曹達灰、礦油、燐寸、護謨製品等其他工産物に於て著しく増加したるは最も意を強

ふするに足るものあり左に神戸港最近三箇年間の集散貨物の數量を表示すべし

神戸港集散貨物噸量表

計合	送發	着到	大正二年		大正元年		明治四十四年		
			噸數	千分比例	噸數	千分比例	噸數	千分比例	
陸水	陸水	陸水	計運	外國貿易 沿岸貿易	計運	外國貿易 沿岸貿易	計運	外國貿易 沿岸貿易	
									計運
陸運	水運	陸運	水運	陸運	水運	陸運	水運		
陸運	水運	陸運	水運	陸運	水運	陸運	水運	陸運	水運
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
六九二,011	二九二,794	三九四,107	1,000	1,000	703,748	1,000	536,000	1,000	336
二五九,326	一三九,252	一,107,866	四九二	三七四	三,265,966	四七七	二,903,733	五四二	五四二
二五三,363	一三九,252	一,107,866	三七四	四九二	二,823,333	四〇二	一,711,833	三一九	三一九
九三,033	五九,290	三九四,107	一三五	一九二	九八,883	一三三	七五,078	一四一	一四一
六九二,011	二九二,794	三九四,107	1,000	1,000	七〇三,七四八	1,000	五三六,〇〇〇	1,000	三三六

第三章 工業發達の趨勢

本市に於ける工業發達の沿革を見るに開港前に於て既に都會として發達したる兵庫には多少家内工業存したりしも未だ工場として見るべきもの殆んど存せざりしなり開港後外國貿易の發達に従ひて各種貿易品の製造工業勃興し輸出屏風竹器造船燐寸石鹼等は最も早く創設せられ明治十年迄に創立せられたる重なるものを見るに大路茶箱工場(明治三年)戀田屏風工場(同四年)神戸製紙會社同七年(千谷靴工場同)等あり明治十年以後に至りて工場の創設せらるゝもの次第に増加し其間幾多の變遷を経て明治二十九年末に於ては其數實に三百二十三箇所職工數二萬千餘人の多きに達せり其重なるものを舊湊川以東と以西とに分ち示せば左表の如し

種別	種別	種別	
		湊川以西	湊川以東
紡績	紡績	二	二
		三六	一
		三六	三六



種別	淡川以西	淡川以東	計	種別	淡川以西	淡川以東	計
燐寸軸木	一七		一七	石油			
精米	六六		六六	硝子製			
鍛冶場	二〇	二二	四二	白土			
燐寸箱	一一	四八	五九	麵粉			
燐寸小箱	一一		一一	油			
燐寸小箱	一一		一一	油			
造船				油			
貝製				油			
製通				油			
陶器				油			
棒				油			
石				油			
葉				油			
鐵工				油			
子				油			
工				油			
計	四一	四一	八二	計	三	三	六

明治三年以後工場の増加年を逐ふて著しく今や其數實に八百餘を算するに至れ

り同年以後の創設に係る重なるものを列擧すれば左の如し

名	稱	所在地	創立年月
神戶	三菱造船所	和田崎町三丁目	明治三十八年七月
川崎	造船所兵庫分工場	東尻池村	同 四年七月
神戶	鐵工株式會社	須佐通五丁目	同 四十三年七月
神戶	製鋼所	協濱町一丁目	同 三十八年九月
日本燐寸製造株式會社	荒田	荒田町二丁目	同 四十年一月
同	大開工場	大開通五丁目	同 上
同	御藏工場	御藏通二丁目	同 上
同	湊町工場	湊町三丁目	同 上
開	燧社	大開通五丁目	同 三十九年九月
良	燧社	松原通三丁目	同 三十年十二月
同	大開工場	大開通七丁目	同 三十八年十二月
同	水木工場	水木通一丁目	同 三十四年一月

同 三川口工場	三川口町三丁目	同	上
同 荒田工場	荒田町三丁目	同	上
神原燐寸製造所	駒ヶ林村	同	三十七年九月
若竹燐寸製造所	松原通七丁目	同	四十年二月
瀧川大開工場	大開通三丁目	同	三十八年一月
公益社神戸工場	雲井通二丁目	同	三十八年一月
益進社	琴緒町五丁目	同	四十一年九月
倭燐寸工場	水木通七丁目	同	四十三年八月
鳴行社	筒井町	同	三十七年二月
赤松燐寸製造所	明治通二丁目	同	三十八年八月
第二日進社	須佐通四丁目	同	三十八年十月
小島燐寸第三工場	上庄通四丁目	同	四十三年四月
公燧社	中道通七丁目	同	四十三年二月
横濱魚油株式会社神戸工場	東尻池村	同	四十四年一月

朝日樟腦精製合資會社	神若通五丁目	同	四十年四月
井上豆粕製造所	東尻池村	同	三十八年十月
臺灣製糖株式會社神戸工場	同	同	三十三年十月
福音印刷合資會社神戸支店	吾妻通三丁目	同	三十七年八月
日本商標印刷合資會社	水木通二丁目	同	三十六年一月
光村印刷株式會社	再度筋	同	四十二年五月
宮下合名會社製軸部	御崎村	同	三十二年六月
同製函部	同	同	三十八年六月
中村商店製軸工場	和田山通二丁目	同	四十三年七月
永井商會	三番町一丁目	同	大正二年八月
合名住宅組	加納町六丁目	同	明治四十五年一月
森原工場	磯上通七丁目	同	四十四年十月
阪東式調帶合資會社	明和通二丁目	同	三十九年四月

大正二年中に創設せられたる工場は三十二箇所にして内原動力を使用するもの

十三箇所とす其重なるものは豊田製軸工場増田製軸所田裏眞田工場神戸瓦斯西製造所とす而して本年中に創設せられたる三十二箇所の工場に従事する職工の数は男女合せて二百八十三人原動力十九臺にして其馬力數八十七馬力九とす其詳細左表の如し

大正二年中創立工場明細表

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	原動力	
					男	女	
					種類	臺數	
						馬力	
鷹取工場	天然金巾	和田宮通一丁目	鷹取信次郎	大正二年一月	一	一	一〇
山田工場	自轉車車臺	東雲通一丁目	山田島吉	年十一月	八	一	一〇
井場鐵工所	諸器械	東出町三丁目	井場磯吉	年一月	四	一	一〇
山田鐵工所	金物器具	旭通一丁目	山田佐藏	年五月	三	一	一〇
大松鐵工所	同	東出町二丁目	大松由松	年四月	三	一	一〇
中西鐵工所	同	門口町	中西丑松	年三月	二	一	一〇
富永鐵工所	同修繕	正慶町	富永吉三郎	年一月	二	一	一〇
野田時計店	時計修繕	下山手通八丁目	野田啓太郎	年七月	一	一	一〇
奥製紙所	流直紙	下山手通四丁目	奥惠三	年四月	一	一	一〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	原動力	
					男	女	
					種類	臺數	
						馬力	
山一製肥工場	人造肥料	新町	山一車田商店	大正二年二月	四	一	一六〇
信盛組工場	製木モール製木	三宮町一丁目	信盛組	年二月	五	一	一七
高津製綿所	製綿	鷹濱町三丁目	高津ナヲ	年一月	五	一	一〇
池田工場	アロツク	富屋町	池田武一	年九月	二	一	一〇
藤本精米所	精米	中山手通七丁目	藤本重三郎	年二月	三	一	一〇
室山精米所	同	日暮通一丁目	室山嘉吉	年七月	二	一	一〇
青木精米所	同	大開通二丁目	青木周太郎	年十月	二	一	一〇
葉阪ソース工場	ソース	下澤通五丁目	葉阪勇吉	年八月	二	一	一〇
佐藤印刷所	商標印刷	三川口町三丁目	佐藤九八郎	年七月	四	一	一〇
村上印刷所	印刷	北長狭通五丁目	村上睦次	年四月	一〇	一	一〇
豊田製軸工場	機寸軸木	明和通二丁目	豊田信二	年三月	七	一	七五
鹽田製軸所	同	東尻池町三丁目	鹽田小三郎	年四月	八	一	七五
赤松素地製造所	機寸小商素地	松原通七丁目	赤松嘉太郎	年七月	七	一	七五
金福製箱所	包装箱	大開通五丁目	金福傳吉	年四月	一	一	一〇
由良製箱所	同	三宮町一丁目	由良亥之介	年二月	一	一	一〇
田方工場	指物	旭通二丁目	田方吉松	年八月	二	一	一〇
田裏眞田工場	麻眞田	八幡通四丁目	田裏虎太郎	年十一月	二	一	一〇
佐藤工場	大理石製品	相生町四丁目	佐藤乙治	年五月	六	一	一〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	原動力
横山工場	綱	二宮町二丁目	横山兵吉	大正二年一月	男 一 女 一	他	一〇
大野工場	パツキン	夢野村	大野理市	同	男 一 女 一	他	一〇
倉形工場	鉛	再度筋	倉形藤五郎	同	男 一 女 一	他	一〇
竹内洋服店	洋服	中山手通二丁目	竹内梶松	同	男 三 女 三	他	一〇
神戸瓦新西製造所	瓦	西尻池村	神戸瓦新株式会社	同	男 三六 女 三六	他	三二八〇

更に本市内に現存する工場数八百五十一を創立時期に依り区分すれば明治二十年以前の創設に係るもの六十四同年後三十年迄のもの九十九其他六百八十七箇所の工場は三十一年以後の設立とす今之れを表示すれば左の如し

創立年別	工場数	總數ニ對スル百分比	創立年別	工場数	總數ニ對スル百分比
明治二十年以前	六六	七・八	明治四十一年以後	三三二	三九・〇
同三十年以前	九九	一一・六	詳	七八	九・二
同四十年以前	二七六	三二・四	計	八五一	一〇〇・〇

尙各種類別私立工場を創立期時に分類すれば左の如し

種別	明治二十年以前		明治三十年以前		明治四十年以前		明治四十一年以後		不詳	計
	工場数	總數ニ對スル百分比	工場数	總數ニ對スル百分比	工場数	總數ニ對スル百分比	工場数	總數ニ對スル百分比		
紡織工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
製織工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
染色工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
其他加工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
機械工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
船舶工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
車輜工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
諸機械工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
器具工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
金器工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
小工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
化學工業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
窯業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
製紙業	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
漆器	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一
計	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一・一	一	一

水	菓	菜	飴	水	雜	小	雜	業	印	紙	燐	燐	竹	桶	箱	家	木	皮	羽	卸	麻	石	玉
子	子	子	子	產	計	業	業	業	製	製	函	材	材	類	具	製	製	製	製	製	製	製	製
					四			四			三		一	一	三		四	四	四	四			
					〇	二			八		一	七	一	一	八		五	四	二	一			
					二	三		四	三		二	九	七	八		六	一	五	一			三	
					〇	二		六	二		四	七	六	七		七	二	四	六			七	
					一	三		一	三		一	二	三		四	三	二	一					
					一	三		九	〇		六	一	九		三	四	二	六	二			〇	
					一	三		九	〇		六	一	九		三	四	二	六	二			〇	

種	別	以	以	以	以	不	詳	計
種	別	明	明	明	明	不	詳	計
種	別	治	治	治	治	不	詳	計
種	別	二	三	四	四	不	詳	計
種	別	十	十	十	十	不	詳	計
種	別	前	前	前	前	不	詳	計
種	別	年	年	年	年	不	詳	計
礦	製							
精	製	三	五	〇	二			六
精	製							八
糖	造							二
飲	食	二						四
小	計	九	二	一	四			〇
雜	業							六
人	造							六
石	料							六
護	謨							二
梓	膜							二
薄	腐							二
製	荷							一
木	藥							四
製	蠟							六
雷	油							一
燐	管							四
ク	寸							三
レ	一							三

種別	明治二十年以前					明治三十年以前					明治四十年以前					明治四十一年以後					不詳	計
	小計	瓦斯	電氣	特別工業	小計	雜船	眞田	蘭麥	ロ	小計	雜船	眞田	蘭麥	ロ	小計	雜船	眞田	蘭麥	ロ			
合計	六六				九九					二七六					三三二					七八	八五一	
小計																						
瓦斯																						
電氣																						
特別工業																						
小計																						
雜船																						
眞田																						
蘭麥																						
ロ																						
計																						

### 第四章 工業の現況

#### 一、工場と職工

大正二年末現在に於て本市内に現在する工場は大小八百五十箇所にして之に従事する職工徒弟は三萬六千五百二十六人とす之れを前年末に於けるものと對比

するに工場に於て百二十箇所職工に於て八百十六人を増加せり左に本市内の工場及職工数を詳記すれば左の如し

工場	職工数		計
	男	女	
私立工場	八五〇	一三、五五五	三六、五二六
官立工場	四	九七	二、八三七
監獄	一	九八	一、〇七四
計	八五五	一三、七五〇	四〇、四三七

尙工業の種類に依り分類するに私立工場中最も多きは雜工業の四百三十一箇所にして之れに次ぐを機械工業の百四十箇所飲食工業の百三十九箇所とす而して職工数の最も多きは機械工業にして一萬四千六百十人次に次ぐを化學工業の八千六百人雜工業の七千十四人染織工業五千十三人等とす其詳細を示せば左表の如し

工業	種類別私立工場数並職工数		計	一工場平均職工数
	工場数	職工数		
染織	一	五八五	四、七八〇	四、七八〇
紡				
織				
計				

業 工 物 食 飲							業 工																					
小	雜	水	飴	菓	氷	礦	製	精	製	精	釀	小	雜	人	石	護	樟	薄	製	木								
計	品	子	水	粉	穀	茶	精	造	計	料	驗	誤	觸	荷	藥	蠟												
一	三	九	八	三	五	四	一	六	一	二	八	二	二	二	一	四	一	〇	二	六	六	二	二	六	二	一	四	
八	九	三	四	三	八	三	五	八	一	七	二	〇	七	一	〇	三	七	一	四	八	一	九	三	七	一			
二	五	六	一	五	二	一	五	九	四	二	一	一	〇	〇	一	〇	二	五	二	一	一	一	四	一	一	一	四	
一	一	四	五	八	一	〇	八	六	〇	〇	二	八	二	六	七	二	〇	四	七	四	〇	〇	三	四	四	八	二	五
八	七	三	七	四	二	六	八	四	四	四	一	〇	三	六	一	七	四	六										

學 化	業 工 械 機	業 工 織 染	區 別																																	
製	雷	機	ク	漆	製	窯	小	金	器	諸	車	船	小	整	理	其	他	ノ	加	工	物	物	綿	製												
油	管	寸	一	器	紙	業	計	品	具	械	輛	舶	計	物	物	綿																				
六	一	三	四	三	一	九	九	一	四	〇	四	六	一	五	三	九	二	一	八	四	五	二	六	一	四	三	一									
一	七	六	一	一	六	二	九	一	四	三	九	七	一	〇	六	六	〇	七	四	一	〇	一	四	八	一	六										
三	九	一	六	九	九	一	五	九	二	一	三	一	一	九	三	八	九	八	五	七	四	二	七	二	四	九	四	二	四	一						
二	一	五	七	〇	〇	一	六	七	一	四	六	一	〇	一	〇	七	一	七	五	〇	一	三	一	五	〇	五	二	二	五	六						
三	五	一	七	〇	〇	一	六	七	二	六	三	一	八	二	九	五	五	九	一	一	一	五	三	八	六											

業	工	雜	區	工場數		職工數		一工場平均
				男	女	計	職工	
印刷及製木	紙製木	印刷製木	六〇	一〇三三	二一九	一、二五二	二〇	
燒寸軸木	燒寸軸木	燒寸軸木	一九	四八九	四五	一三五	七	
燒寸小函及木	燒寸小函及木	燒寸小函及木	一六	六三八	四五	一四四	九〇	
竹材	竹材	竹材	三五	七二	六〇	一四四	七	
桶類	桶類	桶類	一四	三九	六七	一三九	二	
箱類	箱類	箱類	四七	三九	一	三九	二	
家具	家具	家具	二四	四六二	三〇	四九二	一〇	
木竹莖莖製品	木竹莖莖製品	木竹莖莖製品	二四	二二九	七	一三六	五	
皮革製品	皮革製品	皮革製品	二六	六九	一	七〇	二	
羽毛製品	羽毛製品	羽毛製品	二	七	二	九	四	
卸類	卸類	卸類	一七	一三二	七九	二一一	三	
麻類	麻類	麻類	一七	九	六七八	六八七	四〇	
玉石類製品	玉石類製品	玉石類製品	一〇	三九	二二	六一	六	
口類	口類	口類	三	四九	四四	九三	三一	
蒔、麥稈及經木	蒔、麥稈及經木	蒔、麥稈及經木	一九	一四九	二一九	三六八	一九	
船具	船具	船具	六	一四	一一	二五	四	
雜計	雜計	雜計	七七	四四四	二三四	六七八	八	
小計	小計	小計	四二一	四、一四二	二、八七二	七、〇一四	一六	

業工別特	合	計		計		計	
		大正	明治	大正	明治	大正	明治
電氣	電氣	八五一	七三〇	二二、九七一	一三、五五五	三六、五二六	四二
瓦斯	瓦斯	四	七	一四〇	一	一四〇	三五
小計	小計	八五五	七三七	二三、一〇七	一三、五五六	三六、六六六	四九
特別	特別	二	二	四九	一	四九	二四
合計	合計	八五七	七三二	二三、一五七	一三、五六六	三六、七一五	四九
大正	大正	七三〇	二二、三三六	一三、三三四	三五、七一〇	四九	
明治	明治	五七八	一七、九九九	一〇、六八二	二九、六七九	五	

更に職工の多少によりて各種工場を分類するに最も多きは四人以下の職工を役する工場にして總數に對する四割二歩強之れに次ぐは五人以上十人未満にして二割五歩弱とす以下使役職工數の増加に従ひて工場數は遞減し百人以上を役する工場は百分の六に過ぎず之れを細別すれば左の如し

使役職工數別工場表

五人以上十人未満	四人以下	動力を使用するもの		動力を使用せざるもの		計		百分比例	
		大正	明治	大正	明治	大正	明治	大正	明治
五	四	二六	二〇〇	三九	二六	六五	二六六	三九	四〇八
六	三	二四	一〇〇	三二	二八	六二	三〇六	三三	三〇八
七	二	二	一	一	一	二	二	一	二
八	一	一	一	一	一	二	二	一	二
九	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十一	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十二	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十三	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十四	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十五	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十六	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十七	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十八	一	一	一	一	一	二	二	一	二
十九	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十一	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十二	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十三	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十四	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十五	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十六	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十七	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十八	一	一	一	一	一	二	二	一	二
二十九	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十一	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十二	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十三	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十四	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十五	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十六	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十七	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十八	一	一	一	一	一	二	二	一	二
三十九	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十一	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十二	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十三	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十四	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十五	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十六	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十七	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十八	一	一	一	一	一	二	二	一	二
四十九	一	一	一	一	一	二	二	一	二
五十	一	一	一	一	一	二	二	一	二



業工學化	業工械機	業工織染	種別
燐 <sub>レ</sub> 漆製窯	小 金 器 諸 車 船 屬 機	小 整 染 織 製 紡 理 其	別
寸   器 紙 業	計 品 具 械 輛 舶	計 他 物 物 綿 績	以千 上 人
	三	一	人 以 五 未 上 百 滿 千 人
二	一		人 以 二 未 上 百 滿 器 人
△ 一 三〇	一		人 上 百 未 二 百 滿 以
八三	一		人 以 五 未 上 十 滿 百 人
△ 一 二	二		人 以 三 未 上 十 滿 人
一 一	五	一 一	人 以 二 未 上 十 滿 人
△ 一	七 一		人 上 十 未 二 十 滿 以
二 一	△ 一 六 七 三 四 三 八   三 二	四 二 一 一	未 上 五 未 十 人 滿 以
	一 二 八 一 六 六 二 五 〇 三 四 二 一	一 一 六 三 一 一	以 四 下 人
一	四 一 二 七 一 二 四 九 五 五 九 二 二	二 二 五 二 〇 一	計
三 四 三 一 九 九	一 四 四 一 三 二 一 八 〇 六 五 九 二 二	四 五 二 六 一 四 三 一 一	

更に之れを各種工業に細別するに左表の如くにして千人以上の職工を役するは紡績、船舶車輛にして五百人以上なるは諸機械、燐寸とす少しく降りて百人以上五百人以下の職工を役するもの船舶、燐寸、諸機械、窯業、製油、樟腦、人造肥料、製糖、印刷、燐寸、軸木、竹材、箱類、木竹、莖莖製品、卸、麻、真田等とす

職工人員別各種工場表 △印は動力を使用せざるもの

動力を使用するもの	動力を使用せざるもの				計	百分比
	大正二年	大正四年	明治十四年	大正二年		
十人以上二十人未満	二五	二二	二二	二七	一〇五	二二
二十人以上三十人未満	三三	三〇	二八	二七	一〇七	二四
三十人以上五十人未満	三三	二七	二二	二二	一〇七	二四
五十人以上百人未満	二五	二〇	一八	一七	一〇七	二二
百人以上二百人未満	二二	一七	一四	一三	一〇七	二〇
二百人以上五百人未満	一三	一〇	八	七	一〇七	一三
五百人以上千人未満	三	二	一	一	一〇七	三
千人以上	二	一	一	一	一〇七	二
計	三三九	三〇四	二四三	二八二	一〇〇〇	一〇〇



製織造		船舶		車輛		機械		器具		金器		窯業		紙業		印刷		清潔		水涼			
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
六〇〇	三〇〇	六〇〇	二八〇	六〇〇	二八〇	三〇〇	七〇〇	五〇〇	七〇〇	二五〇	八〇〇	四八〇	一六〇	一〇〇	三五〇	一〇〇	三五〇	一〇〇	三五〇	一〇〇	三五〇	一〇〇	三五〇
二〇〇	四〇〇	二〇〇	五八〇	二〇〇	五八〇	三〇〇	四八〇	四〇〇	五八〇	六〇〇	三〇〇	三〇〇	五八〇	三〇〇	五八〇	三〇〇	五八〇	三〇〇	五八〇	三〇〇	五八〇	三〇〇	五八〇
一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇	一〇〇	一五〇

各種工業に従業せる職工の賃金を調査するに左の如し

職業別賃金調査表 (大正二年度)

種別	種類		合計	特別工業		雜工業		種別
	男	女		電氣	瓦斯	船	雜	
以上	一、三〇〇	六五〇	四	三	一	一	一	以千 上人
中	八五〇	四一五	三	二	一	一	一	以五百 人未滿
下	三八〇	一八〇	二	一	一	一	一	以二百 人未滿
計	三、八〇〇	一、八〇〇	九	六	三	三	三	以十 人未滿

精製	精製	糖	造	料	鹼	品	腦	蠟	油	寸
穀	茶	糖	造	料	鹼	品	腦	蠟	油	寸
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
七	三	八	二	五	二	八	三	九	四	七
〇	五	〇	八	〇	〇	五	〇	〇	〇	〇
四	二	五	二	五	一	四	二	六	一	七
〇	五	〇	七	〇	〇	八	〇	〇	〇	〇
一	二	三	四	一	一	二	六	二	四	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

玉	麻	貝	箱	竹	燐	燐	製	印	鉛	水
眞					寸	寸				
石	田	鉤	類	材	函	木	紙	刷		
女	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
三	八	五	五	二	八	三	一	四	〇	七
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	六	二	五	二	四	三	六	七	一	九
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
二	五	一	五	一	一	二	二	一	一	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

種	類	上		中		下	
		男	女	男	女	男	女
精穀	穀	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	粉	一〇五〇	一〇五〇	四九〇	四九〇	一五〇	一五〇
製粉	粉	三三〇	三三〇	三〇〇	三〇〇	二九〇	二九〇
	製	八八〇	八八〇	四八〇	四八〇	二〇〇	二〇〇
口	製	五四〇	五四〇	三三〇	三三〇	二〇〇	二〇〇
	口	一〇〇〇	一〇〇〇	六一〇	六一〇	二〇〇	二〇〇
花	製	五〇〇	五〇〇	四五〇	四五〇	四〇〇	四〇〇
	花	七〇〇	七〇〇	六三〇	六三〇	三〇〇	三〇〇
電	製	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
	電	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
瓦	製	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
	瓦	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇

二、工場動力

動力を使用する工場は三百五十九箇所にして其機械八百七十五臺六萬六千三十三馬力九とす之れを前年に比すれば工場に於て百十七箇所機械八十八臺四千三十五馬力二を増加せり其原動力機の最近三箇年間の内譯を示せば左の如し

臺	數		馬	力	
	大正二年末	大正元年末		大正二年末	大正元年末
汽機	101	101	96,400	113,970	116,670
	101	101	1,000	1,000	1,000
空氣壓搾器	16	15	15,760	14,643	16,999
	16	15	2,671	2,937	6,699
蒸汽タービン	7	7	2,671	2,937	11,311
	7	7	705	705	600
瓦斯發動機	10	2	2,671	705	2,671
	10	2	2,671	705	2,671
石油發動機	4	5	2,671	2,671	2,671
	4	5	2,671	2,671	2,671
發電機	351	351	10,546	8,257	5,795
	351	351	10,546	8,257	5,795
電動機	234	165	870	3,700	2,800
	234	165	870	3,700	2,800
計	835	77	60,399	61,947	35,041
	835	77	60,399	61,947	35,041

種	類	上		中		下	
		男	女	男	女	男	女
精穀	穀	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
	粉	一〇五〇	一〇五〇	四九〇	四九〇	一五〇	一五〇
製粉	粉	三三〇	三三〇	三〇〇	三〇〇	二九〇	二九〇
	製	八八〇	八八〇	四八〇	四八〇	二〇〇	二〇〇
口	製	五四〇	五四〇	三三〇	三三〇	二〇〇	二〇〇
	口	一〇〇〇	一〇〇〇	六一〇	六一〇	二〇〇	二〇〇
花	製	五〇〇	五〇〇	四五〇	四五〇	四〇〇	四〇〇
	花	七〇〇	七〇〇	六三〇	六三〇	三〇〇	三〇〇
電	製	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
	電	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
瓦	製	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
	瓦	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇

以上に依り觀之各種動力中發電機大部分を占め臺數に於ては二十分の一に過ぎざるも馬力に於ては總數の三分の一を超へたり之れに次ぐは蒸汽タービンにして臺數に於て六十分の一馬力に於て四分の一に當れり汽機亦臺數に於て八分の一に過ぎざるも馬力に於ては六分の一に當れり其他電動機瓦斯發動機等順次相次げり今工業の種類別により原動力の明細を表示すれば次の如し

種類別原動力表

△×印ハ空氣壓搾機  
△印ハ水車ニシテ其馬力ハ算定セズ



業種	汽機		タービン汽機		瓦斯發動機		石油發動機		發電機		自家發電機		電力供給機		計
	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	
菓子	1	100													1
水産品															
雜計	23	1955	4	310	11	520	1	20	3	521	1	268	2	830	23
小計															
雜工業															
印刷及製本	1	150								94			37	665	1
紙製品														285	
燐寸袖木	4	380												285	
燐寸小函及														140	
燐寸地														9	
木地														0	
竹材	1	50												0	
桶類														0	
箱類	3	115												0	
家具														10	
木製器具														10	
製菓器具														6	
皮革製品														6	
羽毛製品														2	
鉛														4	
計															

年次	合計		特別工業	小計	瓦	電	小計	雜	船	經	蘭	石	麻
	數	馬力											
同四十四三年	104	1180	14	8	6	15	3						
大正元年	105	1190	14	8	6	15	3						
明治四十四年	105	1190	14	8	6	15	3						
計	105	1190	14	8	6	15	3						

三、石炭

本市に集散する石炭の總額は大約八億三千八百萬斤にして内工場に於て消費す

るもの約四億萬斤海上船舶に供給するもの一億二千三百萬斤とす而して其重要な輸入地は若松門司及長門宇部港にして他地方に輸出するものは極めて少量にして僅に接近地方の需用を充すに過ぎず

大正二年中市内私立工場に於ける石炭の消費高は左表の如く三億七千二百餘萬斤にして前年に比し著しく遜色あるは動力用に於てコークスの需用激増したる爲め二品を合するときは前年の夫れよりも六百七十萬斤を増加せり而して動力用以外の消費に於て著しく減少したり

石炭消費高

業種	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
紡績	四、九七五、〇〇〇	四、三五四、八五〇	三、六二八、六一〇	三、九三三、九一〇
織物	—	—	—	—
製綿	—	—	—	—
染整	五二〇,〇〇〇	五五〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	九六〇,〇〇〇
整理其他	一四六,〇〇〇	—	—	—
小計	四、六二一、〇〇〇	四、四四九、八五〇	三、六二八、六一〇	三、九三三、九一〇

業種	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
船舶	六、四〇〇,〇〇〇	一、四一〇,〇六三	三、四九七、五〇〇	三、四九七、五〇〇
車機	一、九四七、七六〇	三、二五三、三三〇	一、八〇三、九六〇	一、六三三、〇五〇
諸器具	二、三三九、七五〇	一、九五七、七三六	一、八八七、九四〇	一、一九七、三三〇
金器	八〇〇,〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	三三三、〇〇〇	—
小計	一、一三二、一五〇	五、一三三、〇六九	六、〇七三、三六〇	四、一三三、〇〇〇
化學工業	一、一七〇,〇〇〇	三、一三〇,〇〇〇	七五七、〇〇〇	二、二〇〇,〇〇〇
窯業	一、〇〇〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	七五七、〇〇〇	二、二〇〇,〇〇〇
製紙	三、〇〇〇,〇〇〇	三、一五〇,〇〇〇	六、八五八、八〇〇	五、五九四、五〇〇
漆器	三、〇〇〇,〇〇〇	三、一五〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
煉瓦	四、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
電管	四、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
製油	四、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
木蠟	四、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
製藥	三、八〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
薄荷	三、三六〇,〇〇〇	二、二八〇,〇〇〇	二、二七〇,〇〇〇	二、二七〇,〇〇〇
樟腦	七、九六九、八〇〇	八、三七七、一〇〇	八、五八〇,〇〇〇	七、七八〇,〇〇〇
護謄	三、一八〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	一、四七〇,〇〇〇	—
石鹼	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一、七六〇,〇〇〇	三、五〇〇,〇〇〇



	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
人造肥料	五八六,000	七五,000	三,100,000	三,七五,000
雜小計	三,000	二,000	1,017,000	三,000,000
飲食物工業	三五,068,356	四,187,500	二九,160,050	二九,398,830
釀造	10,000,000	1,500,000	四,507,500	九,110,000
精糖	1,010,000,000	三,500,000,000	二七,010,000	二七,100,000
精茶	三,840,100	五,000,000	六,300,100	六,110,000
精穀	一,818,734	二,150,000	二,393,900	三,992,600
製粉	一七,二九八,500	二,四〇八,100	一四,八二1,000	二〇,1四八,500
礦水	10,000	5,000,000	6,000,000	六,130,100
菓子	1,000,000	1,950,000	八,600,000	八,798,000
罐詰	9,000	六,000	18,000	15,000,000
水産製品	1,174,000	3,000,000	3,000,000	15,000,000
雜小計	四,八七六,000	五,四〇一,190	五,二五九,570	五,九二七,900
紙印刷及製本	2,000,000	四,000,000	三,987,000	五,317,000
雜工業	三,七三三,500	四,000,000	八,000,000	三,317,000

	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
構寸軸木	11,500	1,000	1,000	1,000
構寸小函及木地	1,000,000	3,700,000	3,100,000	3,000,000
竹材	1,000,000	5,000,000	1,100,000	1,100,000
箱類	1,000,000	5,000,000	1,100,000	1,100,000
家具	6,000	1,000	1,000	1,000
木竹莖莖製品	1,000	1,000	1,000	1,000
皮革製品	1,000	1,000	1,000	1,000
羽毛製品	1,000	1,000	1,000	1,000
鉦	1,000	1,000	1,000	1,000
麻真田	1,000	1,000	1,000	1,000
玉石類製品	1,000	1,000	1,000	1,000
口遊多及	1,000,000	6,000,000	6,000,000	4,000,000
經木真	1,000,000	3,000,000	3,000,000	5,000,000
船具	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
雜小計	三,七三三,500	三,000,000	三,000,000	三,000,000
特別工業	一,七五,000	1,000,000	九,140,000	八,000,000
電氣	八〇,三七五,000	六,六五〇,100	八,三九五,000	四,九六八,000
瓦斯	四七,六二九,000	四,九四七,三〇〇	三,一五五,三〇〇	二,〇八五,六〇〇
小計	二八,〇〇〇,三三三	一〇,四七七,五五五	一五,二〇五,三三五	七,〇四九,九〇〇

合 計	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
	三三,七〇五,七〇〇	四四,〇〇七,〇一一	三〇,八五九,六二五	二五,八七七,七〇〇
官立工業	三,七六二,六二九	一五,五六六,六三三		

尙官立工場に於ける石炭消費高は二千二百七十二萬六千斤にして前年に比し七百十六萬八千斤を増加せり其内容左の如し

樟腦工場	大正二年	大正元年	明治四十四年
	八七八,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
鐵道工場	二一,八四八,二八九	一四,五五八,六六二	一二,七六六,二七七
計	二二,七二六,二八九	一五,五五八,六六二	一三,七六六,二七七

更に私立各工場に於ける燃料消費の内容を見るに動力に使用したる石炭二億六千八百餘萬斤コークス千三百四十四萬斤油類二十七石餘にして動力以外に使用せるは石炭一億三百餘萬斤コークス千九百九十七萬斤油類百三十七石とす其内容左の如し

業種	石炭に使用したるもの		其他に使用したるもの	
	石炭	コークス	石炭	コークス
紡績工業	四四,八四五,六〇〇		一〇,一七九,〇〇〇	
製織			五,二〇〇,〇〇〇	
染織			一,四六〇,〇〇〇	
整理其他	四四,八四五,六〇〇		二,六九九,〇〇〇	五九,〇〇〇
小計			一,二六九,〇〇〇	五九,〇〇〇
機械工業	三,五六四,一五〇		二,八七九,〇〇〇	七,〇三六,五〇〇
船舶	一八,四四〇,〇〇〇		九,六七六,〇〇〇	一,五七〇,〇〇〇
車輛	一三,四〇六,一五〇		一三,九九二,五〇〇	四,五二五,一〇〇
諸機械	八,四〇〇,〇〇〇		一,五三〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
器具	一,〇〇〇,〇〇〇		一,五三〇,〇〇〇	四,五六〇,〇〇〇
小計	六七,五四七,五〇〇		一三,七三三,〇〇〇	一七,七七三,〇〇〇
化學工業			一,二〇〇,〇〇〇	
窯業			五,〇〇〇,〇〇〇	
漆製器	六,一一〇,〇〇〇			



大正元年	合計	石炭						其他に使用したるもの										
		小計	瓦斯	電氣	特別工業	小計	雜船	經木	口	小計	瓦斯	電氣	特別工業	小計	雜船	經木	口	
二七六、六三三	二、八八六、三三二	八二九、一三六	一、六〇七、九七	八〇、三三〇	一、〇七三、〇〇〇	二、五九、五〇〇	一、四六、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	七、六七、三三二	七、六七、三三二	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇
六四九、八七	一、三三四、一五八	七六七、三三二	七六七、三三二	七六七、三三二	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	九六〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇
五、四六〇	二、七六、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	九六〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇
一、六七〇、四三〇	一、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	四、〇三六、四三〇	九六〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇
一九〇、八三三	二、一九六、五〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	一、〇七三、〇〇〇	九六〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇
一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	一、三三六、三三〇	九六〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇	二、七六、〇〇〇

因に大正三年六月中本市に於ける石炭取引平均相場及主なる産地よりの運賃等を掲げて参考に資せんとす

三 池 六六、五〇〇 方 城 五五、五〇〇

塊 炭 (以下一萬斤に對する相場とす)

芳雄	大辻	峰地	田川	第二	金田	大浦	赤池	芳雄	山野	新入	元山	忠隈
四三、〇〇〇	四七、六〇〇	四九、五〇〇	四四、五〇〇	四四、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四八、五〇〇	五〇、〇〇〇	三三、二〇〇	三八、五〇〇	四五、〇〇〇	三六、五〇〇	四五、〇〇〇
本洞	明治	元山	忠隈	鯉田	新入	山野	唐山	高島	大辻	鯉田	第二	唐津
四九、二〇〇	五〇、〇〇〇	四二、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	四八、〇〇〇	四三、二〇〇	五七、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三七、五〇〇	四六、〇〇〇	四二、〇〇〇	五五、〇〇〇

粉炭

三池	六〇、〇〇〇	忠隈五尺	四一、五〇〇
唐津	四七、〇〇〇	第二新手	三六、〇〇〇
芳雄	三四、五〇〇	鯨田	四四、〇〇〇
大辻	三三、四〇〇	田川四尺	四三、五〇〇
峰地	三九、〇〇〇	山野	三四、五〇〇
大浦三尺	三九、一〇〇	満浦	四〇、〇〇〇
明治治	四〇、〇〇〇	新入	四二、〇〇〇
本洞	三九、三〇〇	方城	四五、〇〇〇
元山	三九、五〇〇		

船積運賃

一若松より  
一噸に付 壹圓參拾錢  
一萬斤に付 八圓五拾錢

一門司より  
一噸に付 壹圓參拾五錢  
一萬斤に付 八圓七拾錢

四、工産物

大正二年中市内各私立工場に於て産出したる工産物の價額は九千參拾四萬四千餘圓にして前年に比し千百九拾參萬圓を増加せり左に明治四十二年以來の統計を表示すべし

明治四十二年	四八、〇五三、三〇九	大正元年	七八、四一四、五四六
同 四十三年	五五、五四三、九九九	同 二年	九〇、三四四、四七四
同 四十四年	六二、九三六、五六七		

尙一箇年五拾萬圓以上の産額あるものに就き明治四十三年以後を對照すれば左表の如し

船製粉	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
船製粉	二〇八、〇九七	一一〇、四七七	九五、三六九	八六、〇六二
紡績粉	七九、四九八	七、八三二	六、五九四	五、四三二
織精粉	七、六三〇	五、六八六	八、二〇二	七、八四三
精糖	六、八七五	七、三三二	五、七〇一	八、五九二
精穀	五、六三三	六、八三六	三、五四三	二、〇一八
織物	四、九三二	三、四〇二	六、五八八	六、五五九
	三、六五二	三、一六七	二、八八九	一、三九九

諸機 製油 人造肥 樟腦 車輻 薄荷 橋寸小南及木 橋寸軸木 印刷及製本 菓 木竹莖製 木蠟 箱製類	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年
	三九五七九二 二八五〇六一 二八三三六六 二八四四〇一 二八〇七六七 二二〇〇六九 一三六四四二 一七五七七四 一六四一三三 一三三三〇〇 一〇四四九六 六九八〇〇〇 六四九八四八 五九五五五三	三八九六七三 四八二三六〇 二四三三八〇 二六五八六六 二四九七六三 一九二六八九 一六五一三〇 一七三三三〇 一一九二一七 一〇九七一九 六六五九一八 六九五二八五 一一九四八六 六三三三四	八七一〇七七 八七〇三〇 九五〇七六 二四八七〇六 一八〇二四八五 一〇六九九六 五三三三六二 八八九六四七 一〇九三三七 一〇七六五〇 五九四九一六 五四四〇一五 一一三三三七 四二二七七	六五三三三 八六八〇〇 九二八九四 一七八二〇〇 九三七六四 五六四一六五 六九三二六〇 七〇二八五六 五三三三七二 一〇九九九七 一七三三四 二七三三四 一三九九二 四〇一八三

尙各種類別工産額を擧ぐれば左表の如し

工産物價額表	
大正二年	大正元年
明治四十四年	明治四十三年

染織工業 紡績 製綿 織物 染物 整理其他	機械工業 船舶 車輻 諸機 器具 金品	化學工業 製紙 窯業 漆器 雷機	雷機 管寸
七六六〇元 五九四〇 三六五二〇六 一九六一五 四三六一五 二一七四〇四七五	二〇八〇六九七 二八〇七六三七 三九七一九一 一六六六五三 一九〇九五 二七五七五四八	四九五三三 一八六五四〇 二二五〇〇 七七九六七 六八七七五八四 一七三三〇	八〇〇〇 七三六三三七 八七一五六 一一〇〇〇
五六七六八六六 三六八七四三 四〇七三三 八八八八三四一	一一〇四七五七 二四七六三三 三六六七三二 一六二六六 三五五一九 一七八二九〇六	一五〇八六八 二二〇九六四 一一〇〇〇 八七一五六 七三六三三七 八〇〇〇	八〇〇〇 五七〇一七三 七六一四四 三六〇〇〇
八二六〇二二八 二八一九九九 一六八二〇 一一〇九六〇四二	九五八三六五九 一八〇二四八五 八七二〇九七 九五六八九 二〇七九一 二二五〇一三三	一一三三九四 一五七六九九 三二八〇 七六一四四 五七〇一七三 三六〇〇〇	三六〇〇〇 八五九二二八 九八八六四 三三〇〇〇
七八四四三三 一三四九三九 一九五六四	八六〇四七一 九三七六四 六五四二四三 二七〇〇 一〇七五 一〇三一一四三	一一〇四三 一八三六六 三三〇〇 九八八六四 八五九二二八 三三〇〇〇	三三〇〇〇 八五九二二八 九八八六四 三三〇〇〇

製木油	製蠟	製藥	薄荷	樟腦	護謨	石鹼	人造肥料	雜計	飲食物工業	礦造	精糖	精茶	精穀	製粉	水粉	冰水	菓子
二六六〇六一	六九〇〇〇	二〇六〇三五	二二〇六一九	二八二四〇一一	五二一六四	三九三六六	三九三六六	一九三四二八七三	八五七七〇	四九五二四九六	六四九八四八	五六五三五二四	七九四七九八	二六六九六六	三七一〇〇〇	一三三四五〇〇	二七八四四
四八三六〇〇	六九五二八五	一〇四〇〇〇	一九六六九七	二六五八六六	五〇〇〇〇	一七五〇〇	二四三六〇〇	二〇五六六五三	六二〇六五	三四〇二一七八	一三九四八八	六八三六八七	七二八八三三	三四八三四五	五六一五三	一〇九七二六	一五八二〇八
八七〇三八〇	五四四〇一五	九三九四八	一一〇六九九六	二四八七〇六	一一五〇〇	九五〇七六	四八三九六	一三三〇四六六	七四七〇三	六五五八八〇	一一三三五七	三五四三九〇〇	六三九九九〇	二五三六七〇	九四九五	一〇七六六五	九八九五四
八六八一〇〇	二七三〇〇〇	四〇七五〇	五五四一六五	一七六二〇〇九	一一〇〇〇	九六六〇〇	一三九八五四六	一三九八五四六	三三三九九	六五五九二五七	一一三九九三	二二〇二〇八	五三四七二四	一八八三四四	七〇八二八	一〇一九九〇九	九五〇〇〇

五四

製油	水産製品	雜計	印刷及製本	紙製	橋寸軸木	橋寸小函及木地	竹材	桶類	箱類	家具	木竹莖製製品	皮革製品	羽毛製品	卸製	麻製	玉石製	口製	經木
一八四九一	三六六三九	二二〇八一四七	一六四一三三	四二二二八	一一七五七四	一三七八四二	四九五五八四	一六二四九	五九五五五	五七四八〇	一〇四四九四	一三七一〇〇	五一一四〇	六四一八七	二八八二六二	二七三三三	二二五三三	三六五〇八
六〇〇三	四四九四六	七三九〇〇	一一九二一七	五三三九四六	一一七三三〇	一六五二五〇	四九七二四	一八九六五	六三三三四	九三三三〇	六六五九八	六九四〇〇	四九七九二	一四六九一七	三〇八〇〇	二八九〇八八	七五五〇〇	
一六五八	一一三五〇〇	五七四八五	一九七三三六七	四五一七〇〇	八八九六四七	五七三三六二	四九三二二八	五三三五四	四二二七七	五九四七八	五九四九六	五九四九〇	五九七二〇	八九一〇〇	一九〇五〇	一七三二九	八一七〇〇	
四七六五〇	五一六八五	一六八五五七五	五三三七一	三三三九五〇	七〇二八六六	六六三一六〇	三六九〇〇五	一三九二〇〇	四〇一八三	一三四八九	二七七三三	三二四四四	四九三三四	一五七六〇	一三七七〇	一〇三三三七	三三〇四四	

五五

合計	船具		特別工業		瓦斯計		合計
	大正二年	大正元年	明治四十四年	明治四十三年	大正二年	大正元年	
九〇三、四四七	一〇、八〇〇	一五、一八〇	九、一五〇	四、八五〇	一、三八〇、二二三	一、四四、九八九	一、四四、九八九
	八、七九二、九五四	二〇、五九、六六九	九、九七、四八八	九、〇七、五九二	一、四四、九八九	一、四四、九八九	一、四四、九八九
	一、八四九、二〇七	九〇、二一九	六〇、四九、八八六	四、六四、七六五	四、四四、二二八	四、四四、二二八	四、四四、二二八
		一、三六、一四六	一、三三、六五五	一、〇四、四四五	二、六九、二五〇	二、六九、二五〇	二、六九、二五〇
		七、九四、四四六	六、三三、六六七	五、五三、三六〇	七、九四、四四六	七、九四、四四六	七、九四、四四六
		六、三三、六六七	五、五三、三六〇	四、六四、七六五	五、五三、三六〇	五、五三、三六〇	五、五三、三六〇
		五、五三、三六〇	四、六四、七六五	三、〇一、六五三	五、五三、三六〇	五、五三、三六〇	五、五三、三六〇

官立工場に於ける製産額は參百五拾九萬九千餘圓にして前年に比し百六拾九萬圓を減じたるは樟腦に於て百八拾萬圓を減少したるに因るものにして其内容左表の如し

樟腦 鐵道用車輛 其他器具 印刷器具 監獄製品	大正二年		大正元年		明治四十四年	
		八四〇、九四四	二、五四、三〇四	一、六三九、三三四	二、〇六六、〇九七	四、二一五、八六五
	二、四四四、二六六	二、二四六、四七〇	二、二四六、四七〇	二、〇六六、〇九七	四、二一五、八六五	四、二一五、八六五
	四四、七四〇	四一、三四四	四一、三四四	四一、八三一	四、二一五、八六五	四、二一五、八六五
	二六九、二五一	四五七、七一六	四五七、七一六	四五七、七一六	四、二一五、八六五	四、二一五、八六五

計

三、五九九、二〇一

五、二八九、八三四

四、二一五、八六五

### 第五章 工場の分布

本市東西の兩端に於ては工場敷地として最も恰適したる耕地今尙數百町歩ありて漸次工場敷地に變換せられつゝあり殊に西部に於ては大正元年以來各種工場を設置さるゝものに日に多きを加へ今尙企畫中にあるもの少なからざるやに聞く而して本市は何れの地方に於ても海岸に接し水運の便最も良好なるのみならず鐵道及國道幹線は其中央を貫通し支線亦縱横して水陸の連絡極めて至便とす加之西部に於ては目下耕地整理法の下に道路を開設し市内及附近停車場並に海岸との聯絡を計畫し事業進行中なるを以て遠からず完成を見るべく從て將來工場敷地として最も有望なるものとす而して工業の固定資本として最重要なるものは敷地費なれば之れが高低は忽ち創業資金の多寡に關係するものにして企業計畫に影響する所少なからざるべし西部に於ける目下の地價は頗る廉にして一坪五圓乃至拾圓に過ぎざるなり



而して目下市内に現存せる大小工場八百有餘の所在地は何れの方面に最も多きか其種類別如何は本市工業發達の状態を示すものなれば今工場分布の状況を示さんとするに當り市内を大別して假りに十二區とせり即ち左の如し

- 第一區 生田川以東 一圓
- 第二區 生田川以西葺合區 一圓
- 第三區 神戸區
- 第四區 仲町部(湊區を含む) 一圓
- 第五區 川崎部 東川崎、相生町、元町七丁目、西出町、東出町、北宮内町、川崎町 佐比江町
- 第六區 新川方面 南逆瀬川町、關屋町、今出在家町以東、新川以西
- 第七區 和田崎部 和田崎町、上庄通、今和田新田、和田宮通
- 第八區 兵庫中部 湊町、永澤町、三川口以南、小川通、入江通迄
- 第九區 運河沿岸 須佐野通以西、運河兩岸及同以東、御崎村吉田新田、御藏通
- 第十區 兵庫地方 大開通、羽坂通以北、五番町以東、兵庫地方

- 第十一區 東尻池 鐵道以南、新湊川以東、運河西岸以西
- 第十二區 林田部 新湊川以西

以上の區別により工場數及職工の分配を見るに左の如し

地域別	工場數		職工數		計	職工工場平均數
	工場數	男	女	計		
生田川以東	五七	一三九七	七三	一四七〇	二五二	
生田川以西葺合部	九七	一〇八九	一六六	一二五五	一三五	
神戸部	一九	一三五七	六六	一九二三	九二	
仲町部	二五	七五四	九四	一五四八	一三四	
川崎部	七	八八八	一一	八三〇〇	一六九	
新川方面	三	二九四	一一	三九六	一三七	
和田崎部	七	二六四	一〇	二七九	三九四	
兵庫中部	一三	一八七二	二五九	二一三三	三二八	
運河沿岸	四	四一五	五四	四四〇	二〇七	
兵庫地方	四	七〇八	一一七	九六六	二四三	
東尻池	三	四九五	四九	五三四	一八二	
林田部	一三	一三三	六	二〇〇	一六二	
計	八五一	一三九七一	一三五五	一五六五二	二二九	

以上に依れば工場数の最も多きは神戸部にして兵庫中部仲町部生田川以西苜合部順次之れに次がり而して最も少なきは和田崎部林田部とす然れども之を職工数より観察するときは最も多きは運河沿岸川崎部兵庫中部和田崎部之れに次ぐ更に一工場平均職工数より之を見るときは和田崎部の三百九十四人を最多とし運河沿岸の二百人川崎部の百十六人之れに次ぎ最も少なきは神戸部の九人とす更に工業の地域別現存在数を示せば次表の如し

大正元年 明治四十四年	工場数		計	一工場平均 職工数
	男	女		
	三三三	三三三	六六六	四六
	一七九	一七九	三五八	四六
	二六六	二六六	五三二	四六
	一七九	一七九	三五八	四六
	三三三	三三三	六六六	四六

六〇

種別	生田川	生田川西	神戸部	仲町部	川崎部	新川	和田	兵庫	兵庫	運河	兵庫	庫東	尻池	林田部	計
	染織工業	一	一	四	三	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一
紡績															一
製織															一
物物															一

其他整理	小計	機械工業	船舶	船舶	車機	諸具	器具	金器	小計	化學工業	窯業	漆器	ク	燧	雷	木製	木製	薄製	樟	
二六	四五	一八	二二	一八	三九	一五	四六	四〇	九	九	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	四	一	二	三	七	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

六一

種別	紙製品	紙製寸軸木	機寸小函及木	竹材	桶	箱	家具	木竹莖製品	皮革製品	卸製品	羽毛製品	麻製品	玉石類製品	口	經	船	雜	小計	特別工業	電	瓦	新氣	
以生田川				五														二七					
西田川																		四三					
西田川																		一三三					
仲町部																		四三					
川崎部																		二七					
新川																		一一					
和部																		一一					
田部																		一一					
兵部																		七六					
庫部																		二八					
沿河																		二二					
地庫																		二二					
兵庫																		九三					
東																		一一					
尻池																		四二					
林田部																		七七					
計																		二二					

種別	護	石	人造肥料	雜	小計	飲食物工業	釀	精製糖	精製茶	精製穀	製粉	礦水	冰	菓	菓子	水産製品	雜	小計	工業	印刷及製本		
以生田川																						
西田川																						
西田川																						
仲町部																						
川崎部																						
新川																						
和部																						
田部																						
兵部																						
庫部																						
沿河																						
地庫																						
兵庫																						
東																						
尻池																						
林田部																						
計																						

小計	生田川以西		神戶部		仲町部		川崎部		新川和部		兵庫運河		東尻池		林田部		計
	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	大正元年	明治四十四年	
合計	五七	四七	九六	六四	一九九	九六	一一五	七二	三一	七	一三七	四八	四一	二二	一三	八五一	二四
大正元年	五二	四七	七一	六四	一四八	九六	一三三	五一	二九	七	一三二	四三	四一	一六	一三	七三〇	一三
明治四十四年	五七	四七	九六	六四	一九九	九六	一一五	七二	三一	七	一三七	四八	四一	二二	一三	八五一	二四

尙各地域に別ちたる原動力を示せば左表の如くにして最も多くの原動力を有するは林田部にして二萬九千二百四十二馬力次は生田川以東の一萬四千六百七十一馬力川崎部の六千九百九十二馬力和田崎部の六千九百七十三馬力之れに次げり最も少きは兵庫地方の百二十七馬力にして明治四十四年以來著しく變化せるは林田部が四十四年に於て一馬力も有せざりしもの大正元年には一萬六千九十七馬力を計上するに至り更に大正二年には二萬九千有餘馬力を算するに至りたと生田川以東が四十四年には九千九百八十四馬力なりしも大正元年には一萬四千二百十三馬力大正二年には一萬四千六百七十一馬力を有するに至れり以て東西兩端に向て大工場創設の趨勢を窺知するに難からざるべし

地域別私立工場動力表

本表中△印ハ水車×印ハ空氣壓搾機

地域別	汽機		蒸氣機		石油機		發電機		自家發電機		電力供給機		計	大正元年	明治四十四年	
	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力	數	馬力				
生田川以東	一八	三〇八五	四〇	一〇二二	三	九六	九	六五九五	四	六六九	三	三〇四〇	八九	一四六七	七四	二二六六
生田川以西	一〇	八二五	二	一一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
四舞合部	四	六二〇	一	八〇五	一	九三二	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
神戶部	四	一六五	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
仲町部	四	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
川崎部	二	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
新川方面	一	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
和田崎部	一	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
兵庫中部	六	一一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
運河沿岸	二	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
兵庫地方	一	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
東尻池	九	一七〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
林田部	二二	二六〇〇	三	一〇〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇
計	一〇五	一三九七〇	四七	一〇二二	七	一〇六	一〇	六五九五	九	六六九	四	三〇四〇	九二	一四六七	七五	二二六六
大正元年	一〇五	一三九七〇	四七	一〇二二	七	一〇六	一〇	六五九五	九	六六九	四	三〇四〇	九二	一四六七	七五	二二六六
明治四十四年	一〇五	一三九七〇	四七	一〇二二	七	一〇六	一〇	六五九五	九	六六九	四	三〇四〇	九二	一四六七	七五	二二六六

地域別私立工場表

大正元年	計	林田部	東尻池	兵庫地	運河沿岸	兵庫中	和田部	新川方	川崎部	仲町部	神戶部	生田川以西	生田川以東	地域別私立工場動力並使役職工別表					
														動力を 使用するもの	動力を 使用せざるもの	計	動力を 使用するもの		
二二六	二二六	三	二	一	二	四	二	一〇	二四	二四	三八	三三	二四	五人以上	五人以下	計	五人以上	五人以下	計
九八	九八	二	二	〇	二	一	二	一	七	三八	一一	一八	五	計	計	計	計	計	計
三三五	三六〇	五	二〇	二八	二九	五三	二	一一	三一	六二	四九	四一	二九	五人以上	五人以下	計	五人以上	五人以下	計
二〇五	二三一	三	二	一六	一四	四三	三	一一	一一	一五	六五	二七	一九	五人以上	五人以下	計	五人以上	五人以下	計
二〇一	二六〇	五	一〇	一五	四〇	二九	二七	三八	八五	二九	九	九	計	計	計	計	計	計	計
四〇五	四九一	八	三	二六	一九	八三	五	二〇	四〇	五三	一五〇	五六	二八	五人以上	五人以下	計	五人以上	五人以下	計

大正元年	計	林田部	東尻池	兵庫地	運河沿岸	兵庫中	和田部	新川方	川崎部	仲町部	神戶部	生田川以西	生田川以東	地域別原動機使用工場馬力別表										
														未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
二〇七	二二二	△	△						△	△		△		未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
四七	四五	一	三	三	四	七		一	七	三	三	七	六	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
二〇	三三			三	一	五	四			一	七	七	四	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
二	四			一					一	一			一	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
二八	二七	一	二	三	六	一			一	二	四	二	五	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
四	九			二		三	一						一	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
三	三								一				一	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
四	六					四	一		一					未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
一	一								一					未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
八	七	一			二		一		一				二	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計
三三四	三六七	五	〇	二八	二九	五三	二	一	三一	六九	四九	四一	二九	未滿	十以上	十五以上	二十以上	五十以上	百以上	二百以上	五百以上	千以上	以上	計

動力 使用力 有無	生田川以東		生田川以西		神戶部	仲町部	川崎部	新川方面	和田崎部	兵庫中部	運河沿岸
	有	無	有	無							
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	五	九	八	二	一	八	七	一	二	一	二
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	五	八	九	一	二	三	七	九	一	二	五
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	四	八	五	一	二	三	七	一	一	一	二
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	四	九	六	一	一	二	一	一	一	一	一
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	二	三	三	一	四	二	一	一	一	一	一
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	四	一	四	一	四	一	二	三	一	一	一
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	五	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	三	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
五人以上 十人以上 二十人以上 三十人以上 五十人以上 一百人以上 二百人以上 五百人以上 千人以上	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二	九	四	一	一	五	三	一	一	一	一

大正元年	兵庫地方		東尻池		林田部		計
	有	無	有	無	有	無	
二〇〇	〇	一	二	一	二	一	二〇〇
一四七	五	九	七	六	三	七	一四七
四七	一	五	〇	〇	〇	〇	四七
九	二	〇	一	一	一	一	九
九	三	〇	四	三	三	一	九
四	一	二	四	二	二	一	四
九	一	二	一	一	一	一	九
四	一	二	二	一	一	一	四
一	一	一	三	一	一	一	一
一	五	一	四	一	一	一	一
四〇五	三二五	四九一	三六〇	八五三	二〇六	二二八	四〇五

### 第六章 將來の大勢

既往に於ける本市工業は既に述べたる如く駁々として發達し日尙足らざるもの如し而して將來に於て如何なる程度迄發達すべきやは多少議論の存する所なしとせず或は本市の勞銀が大阪市に比較して不廉の感なき能はざるの故を以て將來工業の發達に一定の限度ありと唱ふるものなきにあらずと雖も勞銀の廉不廉は之れを其功程の優劣によりて比較せざるべからず歐米に於ける勞銀の不廉

なるは決して本市と大阪市との比にあらざるも尙工業の發達は殷盛を極め殆んど豫測すべからざるものあり而して其勞銀不廉なる歐米製品が他の商品と市場に於て良く競争に耐へ敢て一步も譲らざるものあるは抑も何に基因して然らしむるか他なし勞力即ち之れなり本市の勞働者は器械の取扱と力量を要する事業に慣れたる等幾多の長所あれば勞銀の不廉なるの一點を以て直ちに本市工業の將來を論斷するが如きは甚しき早計と謂はざるべからず

次に工場地たる燃料の供給及原料並製品の輸送即ち交通の便否に依て將來の發達に大なる關係を有するや論なし然るに本市は内外航路の要衝に位し陸上の交通亦至らざるなく交通輸送に最も至便なるのみならず燃料亦從て得易く工業地として恰も天恵を有するものと謂はざるべからず而して本市西部に於ては工場敷地として最も適當なるもの數百町歩を有し將來發展の餘地尙ほ綽々たるものあり

更に工場用水に就て之れを見るに本市内に於ては河川湖沼の利用すべきもの乏しきを以て工場用水は之れを水道に仰がざるべからず而して本市の水道は目下

の設備に於て遺憾なしと雖も尙將來供給水量の増加を圖り水道擴張工事に着手しつゝあれば遠からず完成するに至り更に一層豊富なる給水を得べし四十一年以來工場に給水したる量は左の如くにして四十一年に於ては二百五十五萬四千三百九十七石なりしも明治四十四年には既に七百九十三萬七千二百二十四石に増加し實に三倍以上に上れり以降多少遜色ありと雖も這は大正元年以降噴水供給を控除し單に動力其他直接工場に使用したるものを表示したるに因るものとす

市内工場供給水量表

明治四十一年	二、五五四、三九七	明治四十四年	七、九三七、二二四
同 四十二年	四、三七三、五七七	大正元年	七、二一〇、三七九
同 四十三年	五、一六〇、六九五	同 二年	六、九五〇、一六九

之れを要するに本市は工業地たるの要件に於ては他市に比し優るとも劣る所なし而して本市工業の特質は所謂多量製産を目的とする大仕掛けの工業に於て特に他に優れりとす即ち船舶紡績製粉精糖精穀燐寸樟腦車輛等主要工業は皆然ら

ざるなし蓋し本市の如きは比較的新しき都市に於ては他の都市に於けるが如き手工的家内工業は未だ發達の域に達せざるものと雖も市の發展に伴ひ漸を逐ふて是等工業の勃興を見ること更に疑ふの餘地なし殊に近來各市に於て工業獎勵の方針を採れるあり市内も亦適當なる工業獎勵法を採らんとし實業獎勵評議員會に對して左の諮問を發し同會に於ては慎重審議中なれば不日成案の實施せらるゝ曉に於ては工業者に採りて便益尠からざるべし

工業獎勵の方法として本市の施設すべき事項如何

イ 工業地區設定の必要ありや否や

ロ 工業に對する市税規則の改廢すべきものありや否や

工業獎勵に關しては各市に於て其採れる方針一定ならざるも横濱市に於て實施せる工業地區設定の如きは參考として研究するの價值尠からざるべし左に横濱市に於ける規定を掲ぐるごとゝせり

工場ニ關スル市税免除規程

第一條 市ノ定メタル地區内ニ工場ヲ新設シ其ノ資本金額會社ニアリテハ投資

額壹萬圓以上個人ニアリテハ土地家屋機械器具ノ價格五千圓以上ヲ以テ新ニ製造業ヲ開始スル者ハ本規程ニ依リ市税ノ免除ヲ求ムルコトヲ得

市ノ定メタル地區内ニ本規程施行前工場ヲ設ケ前項ノ資本金額ヲ以テ製造業ヲ營ム者其ノ開始ノトキヨリ五年ニ滿タサルトキ亦同シ

市内ニ於テ製造業ヲ營ム者市ノ定メタル地區内ニ分工場ヲ新設シ其ノ資本金額中土地家屋機械器具ノ價格五千圓以上ヲ以テ製造業ヲ開始シタルトキ亦同シ

市内ニ於テ製造業ヲ營ム者市ノ定メタル地區内ニ前項ノ資本金額ヲ以テ分工場ヲ設ケ本規程施行前製造業ヲ開始シ其ノ開始ノトキヨリ五年ニ滿タサルトキ亦同シ

前各項ノ地區ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

前各項ノ資本金額會社ニアリテハ壹萬圓個人又ハ分工場ニアリテハ五千圓ヲ下ルトキハ其ノ年ヨリ市税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 前條第一項ノ工場ニ屬スル土地家屋營業若ハ其ノ收入ニ對シテ賦課ス



ル市税ハ營業開始ノトキヨリ五年間製造業ノ種類ニ依リ之ヲ免除ス  
前條第二項ノ工場ニ屬スル土地家屋營業若ハ其ノ收入ニ對シテ賦課スル市税  
ハ其ノ工場ノ營業開始ノトキヨリ五年ヲ限リ其ノ殘餘期間製造業ノ種類ニ依  
リ亦同シ

前條第三項ノ分工場ニ屬スル土地若ハ家屋ニ對シテ賦課スル市税ハ其ノ工場  
ノ營業開始ノトキヨリ五年間製造業ノ種類ニ依リ亦同シ

前條第四項ノ分工場ニ屬スル土地若ハ家屋ニ對シテ賦課スル市税ハ其ノ工場  
ノ營業開始ノトキヨリ五年ヲ限リ其ノ殘餘期間製造業ノ種類ニ依リ亦同シ

第三條 市税ノ免除ヲ求ムルモノアルトキハ市長ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ  
許可ス

第四條 同一ノ場所ニ於テ六箇月以内ニ前ノ營業者ト同一ノ營業ヲ開始シタル  
者又ハ營業ヲ繼承シタル者ニ對シテハ第二條ノ期間ハ前ノ營業者開始ノトキ  
ヨリ起算スルモノトス

第五條 市税ノ免除ヲ求ムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ市長ニ願出ツヘシ

一、工場所在地

二、製造業ノ種類

三、資本金額

四、開始年月日

第六條 本規程ニ製造業ト稱スルハ營業税法ノ規定ニ依ル且資本金額ハ工場毎  
ニ投資金額ヲ區分シ得ルモノニ限ル

第七條 市ノ定メタル地區外ニ於ケル臭氣音響煤煙ヲ發セス且衛生上有害ナラ  
サル工場ニ付テハ土地ノ狀況ニ依リ前各條ヲ準用スルコトヲ得

第八條 本規程ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
別表

大岡町

井土ヶ谷町

蒔田町

堀内町

中村町ノ内字西、彌八ヶ谷、池下、西ノ谷

南吉田町ノ内字西川外

南太田内ノ字〔谷戸耕地、大丸耕地、大原耕地、上耕地、清水耕地、富士見耕地、西中耕地、庚耕地〕

久保町

尾張屋町

西平沼町

岡野町

淺間町

子安町

青木町ノ内字〔廣台、太田町、栗田谷、松本、澤渡谷、西輕井澤、東輕井澤、南三ッ澤、中三ッ澤、北三ッ澤、内海〕

神奈川町ノ内字〔浦島丘、二ッ谷、柳町、富家町、稻荷町、立町、島越、神明町、中川、東白樂、西白樂、平尾前、二本傾、齋藤分、中丸、浦島町、新町〕

高島町自三丁目至十丁目

表高島町ノ内林町ニ接續スル部分

林町

裏高島町三丁目、四丁目

山内町

大野町

寶町

橋本町

星野町

新浦島町

神奈川町、子安町地先埋立地ニシテ將來本市ニ編入セラルベキ區域

工場ニ關スル市税免除手續

第一條 工場ニ關スル市税免除規程ニ依リ市税ノ免除ヲ求メムトスル者ハ第一號様式ノ願書ニ第二號様式ノ資本明細書ヲ添附シ提出スヘシ

第二條 市税ノ免除ヲ求メムトスル土地ハ一筆タルト數筆タルトヲ問ハス家屋ハ一棟タルト數棟タルトヲ問ハス總テ一工場構内ニ在リテ其ノ使用スル部分ニ限ルモノトス

第三條 市税免除ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ申告ヲナスヘシ

一、前年中ノ資本明細書 毎年一月三十一日限

二、所得内譯書 所得決定通知書受領後五日以内

三、工場ノ増減變更及移轉 五日以内

四、製造業ノ種類ノ増減變更及住所氏名ノ變更及相續 五日以内  
(式様略之)

### 第七章 工業會社

本市内に於ける大小八百有餘の工場經營者は大部分個人事業にして會社の經營に係るものは漸く一割に過ぎずと雖も會社經營のものは個人經營に比し資本の豊富なる設備の大仕掛なる爲め其製産額は遙に個人經營の上にあり  
工業會社の數は本支店を合せて七十其資本金八千八百參拾八萬六千九百參拾圓拂込額六千五百九拾貳萬九千七百參拾五圓積立金千五百參拾九萬六千貳百貳拾六圓社債九百參拾五萬圓にして會社經營に屬するもの、投資總額は九千六拾七

萬五千九百六拾壹圓の巨額に達せり之れを前年に比すれば社數に於て一を増し資本金に於て千參百九拾五萬六千圓拂込濟資本に於て千貳百七拾七萬七千九百九拾八圓積立金に於て百四拾萬貳千參百五拾七圓を増加し社債に於ては五拾五萬圓を減じたるを以て投資總額千參百六拾參萬參百五拾五圓を増加せり其詳細左表の如し

種別	會社數	總資本額	拂込濟金額	諸積立金額	社債
紡織	一	一七、四二七、六五〇	一四、九六六、六三〇	七、七六八、九九六	五、七五〇、〇〇〇
造船	四	一三、〇一一、〇〇〇	一〇、六一一、〇〇〇	二、一七五、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇
車輛	三	一一、二〇〇、〇〇〇	六、二〇〇、〇〇〇	三、六、九五七	
諸車	一	一、五四五、〇〇〇	一、五二七、〇〇〇	二、三〇〇	
器	一	二、五〇〇、〇〇〇	九二、五〇〇		
金	一	三〇、〇〇〇	二、五〇〇		
窯	一	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇		
製紙	一	三、〇〇〇	三、〇〇〇	四五〇	
製油	一	一、六六〇、〇〇〇	一、六六〇、〇〇〇	一三七、三五八	
機械	二	一、一〇〇、〇〇〇	六五五、〇〇〇	二〇〇、一〇〇	

種別	會社數	總額	拂込額	諸積立金	社債
木樟	一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二三九	
護謨	五	一、一六〇、〇〇〇	九一〇、〇〇〇	七一、六九八	
石鹼	二	六〇、〇〇〇	二五、五〇〇	五一〇	
肥料	一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		
釀造	二	三五、〇〇〇	三五、〇〇〇		
精製糖	一	二五、五〇〇、〇〇〇	一六、五〇〇、〇〇〇	三、四七七、三〇〇	
精製茶	一	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇		
精製穀	三	五〇九、五〇〇	三〇八、〇〇〇	二〇	
製粉	三	二、二〇〇、〇〇〇	一、九一五、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	
水	三	二五六、五〇〇	一三一、五〇〇	三七〇	
給水	一	八六、〇〇〇	八六、〇〇〇	二、六〇〇	
印刷	一	二七〇、〇〇〇	二五一、〇〇〇	一九、一七一	
紙製	三	二〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	八、〇〇〇	
機寸軸	二	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	一、〇〇〇	
機寸木	二	四、四八〇	四、四八〇		
竹材	一	一〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三七〇	
箱類	二	二〇〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇	四五、五一〇	
卸類	一	八〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇		

八〇

種別	會社數	總額	拂込額	諸積立金	社債
麻	二	二五、〇〇〇	一七、五〇〇		
玉石製	二	一〇、七〇〇	七、〇二五		
口	一	三、〇〇〇、〇〇〇	一、八七五、〇〇〇	六六〇、〇〇〇	
齒	一	六〇〇	六〇〇	二〇〇	
雜	二	五三、〇〇〇	五三、〇〇〇	五、二〇五	
電	一	一四、八五二、〇〇〇	一一、五六二、〇〇〇	二六、〇〇〇	
瓦	一	四、七五〇、〇〇〇	二、三一二、五〇〇	一二三、五四二	
計	七〇	八八、三八六、九三〇	六五、九二九、七三五	一五、三九六、二二六	
大正元年	六九	七四、四三〇、九三〇	五三、一五一、七三七	一三、九九三、八六九	
明治四十四年	五五	五四、五一三、八五〇	四一、三九六、八三五	一一、二二七、〇三四	

更に以上の會社が創立せられたる年次を調査するに明治十四年を最古とし之れに次ぐを同二十年とす而して總數の大半は明治四十三年以後の創立とす其内容左の如し

年別	會社數	主要製品	總額	拂込額
明治十四年	一	茶	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇

神戸市工業概況終

年別	大正二年	大正元年	明治四十四年
計	七〇	六九	五五
主要製品	護謨、肥料、鉛、經木モートル		
資本額	一四〇、六〇〇	七八、三八六、九三〇	七四、四三〇、九三〇
拂込金額	一〇六、一〇〇	六五、九二九、七三五	五三、一五一、七三七
			四一、三九六、八三五

年別	明治二十年	明治二十七年	明治二十八年	明治二十九年	明治三十年	明治三十一年	明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	明治四十五年	大正元年		
會社數	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
主要製品	精穀、精米、製粉、ロープ	紡績、木蠟	造船	造船	瓦	精糖	屏風	樟腦	樟腦	肥料、印刷	肥料、印刷	造船、機寸、石鹼、箱類、軸木	調帶	農具、機寸、樟腦、電氣、製粉	製粉	船舶、印刷	船舶、印刷	諸機械、金屬、製紙、ボイル油	精穀、礦水、水、鉛、軸木、洋服	造船、諸機械、蜜菜、漁油、樟腦	護謨、味噌、精穀、礦水、竹材	車軸、諸機械、機寸、機寸小函	麻真田、人造石
資本額	三、六五〇、〇〇〇	一七、四三七、六五〇	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四〇〇〇、〇〇〇	四、七五〇、〇〇〇	二五、五〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五四〇、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	九五〇、〇〇〇	三、一五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一七、七〇二、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇三、五〇〇	六〇三、五〇〇	二、六四一、〇〇〇	二、六四一、〇〇〇	三六二、一八〇		
拂込金額	二、三二五、〇〇〇	一四、九七六、六三〇	二〇、〇〇〇	七、六〇〇、〇〇〇	四〇〇〇、〇〇〇	二、三一二、五〇〇	一六、五〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	五四〇、〇〇〇	四三〇、〇〇〇	七六、〇〇〇	三、一五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一三、九六九、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三八九、〇〇〇	三八九、〇〇〇	二、一九六、〇〇〇	二、一九六、〇〇〇	三〇一、〇〇五		

附表

神戸市工場明細表

一、染織工業

紡績		製綿		織物		
工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	
					種類 原動力	
會社淵紡績株式	綿絲、綿布	東尻池村	社長 比日谷平左衛門	明治二十九年十月	男 五八五 女 四一九五	種類 原動力 六六二二一四 (キ) 一三三 一五〇〇〇 一三〇〇〇
高津製綿所	製綿	脇濱三丁目	高津なを	大正二年一月	六	
鷹取金巾製織所	天竺、金巾	和田宮通一丁目	鷹取信次郎	大正二年一月	一	
有賀織物工場	木綿、織物	北宮内町	有賀慶次郎	明治三十年	一	

原動力欄中汽ハ汽機、タハ蒸汽タービ  
ン、石ハ石油發動機、瓦ハ瓦斯發動機  
發ハ發電機、電ハ電動機、他ハ他ヨリ  
電力ノ供給ヲ受クルモノ、水ハ日本形  
水車、(キ)ハキロワツトナ示ス

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工		種類	原動力
					男	女		
田先染物工場	染物	元町通六丁目	田先國次郎	明治三十七年	二	三		
丸本染物工場	綿絲、綿巾染	門口町	丸本馬吉	不明	五			
土居染物工場	絹布、木綿染	西仲町	土居新之祐	同	一			
陣野染物工場	洋服、毛織物染	中山手通二丁目	陣野義三郎	明治三十八年九月	二			
整理其他								
山田商店	木綿、絹布	西宮内町	山田市松	明治十二年	五			
酢屋久平商店	絹手布及絹圍扇	三宮町二丁目	酢屋久平	同十六年	九	一	他	一〇
湯川商店	絹圍扇	北長狭通一丁目	湯川清太郎	同四十二年一月	五			
藤木洗濯業	洗濯	兵庫松本通二丁目	藤木松之助	同六年	三			
西海洗濯業	同	下山手通七丁目	西海力藏	同四十年三月	四			
小林洗濯業	同	中山手通七丁目	小林喜兵衛	同七年	四			
歌谷洗張工場	洗張物	北長狭通六丁目	歌谷寅吉	同四十四年三月	六			

根來ゆのし業

ゆのし

下山手通六丁目

根來喜之助 不明

二

五

二、機械工業

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工		種類	原動力
					男	女		
藤見造船所	和船修繕	東尻池村	藤見新三郎	明治三十二年一月	九		汽	一〇〇〇
株式川崎造船所	船舶諸機械	東川崎町二丁目	社長 松方幸次郎	同二十九年十月	七六八二		汽	一〇〇〇
合資宮永鐵工所	船舶	東出町三丁目	宮永芳藏	同四十二年六月	二五		汽	一〇〇〇
山本造船工場	船舶	東尻池村字東高松	山本全治	同四十五年三月	一一		汽	一〇〇〇
伊勢鐵工所	船舶諸機械	東川崎町二丁目	伊勢市五郎	同二十六年一月	四七		汽	一八〇〇
合資石原造船所	船舶修繕	同三丁目	代表者 石原門次郎	同四十四年八月	一九		他	二〇〇
高尾造船鐵工所	船舶諸機械	吾妻通三丁目	高尾要介	同二十年五月	二〇八		汽	五九〇
西脇鐵工所	船舶修繕	東出町二丁目	西脇仲次	同四十三年三月	七		他	二〇〇
兵庫鐵工所	同	西出町	永野喜太郎	同四十年十月	四〇		汽	四〇〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
大福造船所	和船	船大工町	山本福三郎	明治三十年三月	男 一七 女 一	汽	三三〇 三三〇 三三〇
神戸三菱造船所	船、諸機械、電氣機械	和時崎町三丁目	杉谷安一	同 三十八年七月	男 二八 女 四	汽	一四六 一四六 一四六
山陽工作所	船、諸機械	出在家町	壁谷友太郎	同 四十二年七月	男 四六 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
山本造船工場	和船	吉田新田	山本松治	同 四十三年	男 一三 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
永木造船所	船	新在家町	永木政吉	同 二十年七月	男 六 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
濱田鐵工所	船、修繕	西出町	濱田繁次	同 四十三年八月	男 二 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
佐野造船鐵工所	船、汽機	同	佐野彌吉	同 三十九年六月	男 二九 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
株式會社川崎造船所	機關車、客車、貨車、電車、諸機械	東尻池村	社長 松方幸次郎	明治四十年七月	男 二一九〇 女 七四	汽	八二四 八二四 八二四
車源荷車製造所	荷車	三川口町二丁目	井澤嘉太郎	同 三十六年四月	男 九 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
中村自轉車修繕所	自轉車、並自動車	三宮町二丁目	中村橋治	同 四十一年七月	男 五 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
合名大森商會	自轉車、並自動車	北本町六丁目	代表社員 梅宮芳太郎	同 四十五年三月	男 四九 女 一	汽	一四六 一四六 一四六
藤澤商會	同	神若通六丁目	藤澤巖	同 四十四年五月	男 六 女 一	汽	一四六 一四六 一四六

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
平野リム製造所	同	奥平野村	原芳太郎	同 四十四年	男 二〇 女 一五	他	二六〇 二六〇 二六〇
日本自轉車製造株式會社	同	南本町三丁目	取締役 大森喜作	大正元年七月	男 三八 女 二	他	一六〇 一六〇 一六〇
杉原鐵工所	同	古渡通一丁目	杉原儀太郎	明治四十一年十月	男 九 女 一	他	一四六 一四六 一四六
山田鐵工所	同	東雲通一丁目	山田島吉	大正二年七月	男 八 女 一	他	一四六 一四六 一四六
神戸鍍金合資會社	同	八幡通五丁目	代表社員 田淵儀兵衛	同 元年三月	男 七 女 一	他	一四六 一四六 一四六
阿南鐵工所	機	八幡通三丁目	阿南雄平	明治三十三年五月	男 八 女 一	他	二〇〇 二〇〇 二〇〇
大和製罐所	汽罐、汽機	湊町二丁目	大和幸吉	同 三十年一月	男 八 女 一	他	二〇〇 二〇〇 二〇〇
合資關西工作所	諸機械	梅ヶ香町二丁目	代表社員 伊藤利三郎	同 四十四年三月	男 三三 女 一	汽	五〇〇 五〇〇 五〇〇
田畑鐵工所	同	西出町	田畑茂	同 四十年十月	男 二〇 女 一	汽	六〇〇 六〇〇 六〇〇
堀江鐵工所	同	永木通十丁目	堀江亮三	同 四十五年四月	男 六 女 一	他	二〇〇 二〇〇 二〇〇
出田鐵工所	同	加納町四丁目	出田豐松	同 三十二年三月	男 六 女 一	他	二〇〇 二〇〇 二〇〇
笠原鐵工所	同	大開通二丁目	笠原元吉	同 四十二年八月	男 八 女 一	他	二〇〇 二〇〇 二〇〇
神戸鐵工株式會社	同	須佐野町五丁目	齋藤宗三郎	同 四十三年七月	男 九八 女 一	他	一八〇 一八〇 一八〇



工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	男職	女工	種類	動力
前泉鐵工所	諸機械	雲井通三丁目	前泉徳之介	明治三十二年八月	一〇		他	一〇
向井鐵工所	同	加納町三丁目	向井鹿角	四十三年六月	九		他	〇・五
小林鐵工所	汽機、汽罐	東川崎町二丁目	小林捨吉	三十二年三月	六		他	一〇
西谷鐵工所	諸機械修繕	水木通三丁目	西谷藤太郎	四十二年一月	一四		瓦	七〇
肌勢工場	諸機械	加納町四丁目	肌勢萬吉	二十九年七月	一三		瓦	三〇
谷川鐵工所	同	三川口町三丁目	谷川清吉	四十三年二月	七		他	二〇
野村鐵工所	同	永澤町二丁目	野村嘉助	四十五年二月	三		他	〇・五
赤木鐵工所	機械部分品	松本通二丁目	赤木茶三郎	大正元年八月	三		他	一〇
宮野鐵工所	機	明和通一丁目	宮野平太郎	明治四十二年四月	三		瓦	三・五
井場鐵工所	同	東出町三丁目	井場磯吉	大正二年一月	三		他	一〇
大村鐵工所	ホールド	相生町五丁目	大村松太郎	明治二十七年五月	二		他	三〇
河合鐵工所	同	旭通五丁目	河合太八	四十五年四月	七		他	一〇
綿田鐵工所	同	仲町六丁目	綿田利七郎	二十九年五月	六		他	一〇
網本鐵工所	機械附屬品	東出町二丁目	網本常吉	三十八年三月	八		他	一・五

九〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	男職	女工	種類	動力
妻鹿鐵工所	ナット其他	湊町一丁目	妻鹿龜吉	三十八年十月	七			
三木鐵工所	諸機械	一番町二丁目	三木喜太郎	四十四年七月	七			
三木鐵工所	同	上澤町四丁目	三木幾三郎	四十五年三月	一八		瓦	
和田工場	燐寸製造用機械	明治通一丁目	和田萬次郎	不詳	六			
吉井鐵工所	諸機械	下澤通二丁目	吉井政市	明治四十年八月	六		他	二〇
乾鐵工所	諸機械修繕	東尻池町五丁目	乾寅吉	三十五年五月	二六		汽	二五〇〇
居相鐵工所	諸機械	日暮通六丁目	居相重吉	三十八年一月	二五		他	五六〇
安田鐵工所	諸機械、船舶修繕	東川崎町五丁目	安田岩太郎	三十五年十月	一三		他	三〇
紅田工場	諸機械	西出町	紅田久吉	四十三年一月	二		他	二〇
榎木鐵工所	同	東尻池町一丁目	榎木嘉吉	三十年四月	四		他	一〇
大林鐵工所	諸機械、發動機	東出町三丁目	大林幸吉	三十八年一月	一五		他	一・五
株式神戶製鋼所	諸機械、鑄鋼	鷹濱町一丁目	黒川勇熊	年九月	五四六		他	二二五〇〇
會社森田鐵工所	諸機械	東出町一丁目	森田寅之助	四十四年五月	一三		他	二二五〇〇

九一

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
今井量器製作所	量器	元町五丁目	今井善兵衛	明治八年九月	一〇	—	他	—
日本農具製造株式會社	農具	菅原通三丁目	菅原 熙	同 四十年八月	六〇	一五	他	六四三〇〇
桃木滑車製造所	滑車	東出町三丁目	桃木庄太郎	同 十八年二月	一五	—	他	—
神戸瓦新株式會社	瓦	湊町一丁目	松方幸次郎	大正元年十月	一八	—	瓦	—
修繕工場	瓦新用器具	三川口町三丁目	宮下惣左衛門	明治八年十月	六	—	—	—
宮下衡器製作所	衡器	湊町一丁目	前田延壽	同 十一年十月	八	—	—	—
前田工場	同	東出町三丁目	宮崎清八	同 四十三年四月	一四	—	瓦	—
宮崎鑄造所	同	入江通三丁目	大野勝次	同 三十七年二月	五	—	瓦	—
大野鑄造所	同	菅原町四丁目	東宇市郎	同 三十九年二月	九	—	石	—
東鐵工所	同	旭通一丁目	西田馬吉	同 三十年五月	六	—	瓦	—
西田鑄造所	同							三・五
中井鐵工所	建築物、金物及自轉車材料	旭通五丁目	中井政吉	明治三十八年三月	二	—	他	—
高橋工場	鉄釘	西出町	高橋猪之助	同 三十年	六	—	—	—

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
福永鐵工所	金物	日暮通四丁目	福永平吉	同 四十一年一月	五	—	瓦	—
有田鐵工所	織子及諸工具修繕所	算所町	有田鶴松	同 三十五年六月	二	—	他	—
富田鐵工所	手鍵	濱崎町三丁目	富田武次郎	同 年 間	二	—	他	—
岡本鐵工合資會社	火造物	東出町二丁目	田中源之助	明治三十八年六月	九	—	汽	—
大濱工場	手鍵	川崎町	大濱和平	同 四十一年	四	—	他	—
脇本眞鍮工場	建物用金物	中山手通一丁目	脇本繁太郎	同 二十六年四月	二	—	瓦	—
鈴木鐵工所	金物	西出町	鈴木鐵太郎	同 三十八年八月	七	—	汽	—
久山鐵工所	織窓	中道通四丁目	久山彌三郎	同 四十年八月	八	—	他	—
山田鐵工所	金物	佐比江町	山田近藏	同 三十七年一月	七	—	他	—
中田鐵工所	瓦斯コック	八雲通二丁目	中田竹藏	同 四十五年一月	二	—	—	—
都賀鐵工所	鐵力罐、建築用金物	雲井通五丁目	都賀英次	同 三十八年四月	一〇	—	—	—
折谷工場	榨臘罐	加納町五丁目	折谷鐵次郎	同 二十年十月	七	—	—	—
高木鐵工所	建築金物	羽坂通二丁目	高木權次郎	同 三十七年七月	一〇	—	—	—
七野鐵力罐製造所	鐵力罐	磯上通六丁目	七野久吉	同 三十九年六月	七	—	—	—
三好鐵工所	建築用金物	布引町四丁目	三好與三郎	同 四十三年七月	五	—	—	—

三、化學工業

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
合名窪田商店	磁器、食器	八雲通一丁目	石川 明治	明治三十七年七月	男 六〇	他	一五〇
本郷硝子製造所	硝子瓶	臨濱町三丁目	本郷平三郎	三十一年三月	男 六		
丸三開廣舎	同	水木通四丁目	宮崎 常吉	三十年二月	男 二七		
中山瓦製造所	瓦	二番町	中山彦左衛門	二十年二月	男 五		
藤原土細工製造所	土細工	水木通十丁目	藤原 繁藏	四十一年	男 三		
伊藤陶器製造所	陶器	北長狭通三丁目	伊藤 宮次郎	不明	男 九〇		
鈴木陶磁器製造所	陶磁器	同	鈴木金右衛門	明治二十五年四月	男 五		
岡本骸炭製造所	骸炭	南本町五丁目	岡本 德藏	三十六年二月	男 五		
石田製紙場	漉直シ紙	荒田町三丁目	石田 豊市	不明	男 三		
須田製紙工場	漉直シ紙、シナプキン、漉直シ紙	荒田町三丁目、須藤町六丁目	須田 清英	明治四十二年三月	男 三		

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
大本製紙所	漉直シ紙	筒井町	大本 吉五郎	四十年十月	男 九	汽	一四〇〇
合資神戸製紙所	同	旭通一丁目	大島重右衛門	四十三年四月	男 二五	汽	二六〇
秋田製紙場	同	臨濱町三丁目	秋田 九八郎	三十四年二月	男 三	汽	八〇
柏木クレー製造所	クレー	明和通四丁目	柏木 慶藏	明治三十七年十月	男 三〇	汽	四六〇
美除クレー製造所	同	南逆瀬川町二丁目	美除 伊佐雄	二十六年七月	男 七	汽	四〇
室谷クレー製造所	同	松原通一丁目	室谷 藤七	二十五年三月	男 一四	汽	九〇
日本燐寸製 荒田工場	安全燐寸	荒田町二丁目	直木 政之介	明治四十年一月	男 八〇	瓦	九〇
造株式会社	同	大開通五丁目	同	同上	男 一五四	他	三〇
同 大開工場	同	御藏通二丁目	同	同上	男 八二	他	三〇
同 御藏工場	同	湊町三丁目	同	同上	男 八一	他	三〇
同 湊町工場	同	東尻池村	同	同上	男 四	他	三〇
細目燐寸工場	同	同	細目 文吉	三十二年三月	男 四	他	三〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	職 女	工 種	原 動力
開燧社	安全燧寸	大開通五丁目	黒原好二	明治三十九年九月	一九	八三		
真燧合資社	同	松原通三丁目	瀧川儀作	三十年三月	六三	二三〇	瓦	
同	同	大開通七丁目	同	三十八年三月	四〇	一七三		
同	同	駒ヶ林村	神原榮三郎	三十七年九月	四二	六八		
同	同	松原通七丁目	若竹縫次郎	四十年二月	四八	一五七		
真光社	硫黄燧寸	正慶町	園田八郎	四十四年七月	一一	六		
藤澤燧寸工場	安全燧寸	同	藤澤仲助	四十三年四月	二	二〇		
神燧社	同	入江通二丁目	安田淺吉	二十七年七月	三七	七〇		
小田切燧寸製造所	同	下澤通六丁目	朝日常松	四十年	五	八七	他	
日進合名會社	安全細軸燧寸	旭通二丁目	陳源	三十七年十月	三五	四六	瓦	
瀧川葺合工場	安全燧寸	雲井通二丁目	瀧川辨三	二十八年七月	八二	二四九	他	
瀧川中道工場	同	中道通二丁目	同	二十五年八月	八〇	三三三	瓦	
瀧川大開工場	同	大開通三丁目	同	三十八年一月	九七	二八一	他	
瀧川湊町工場	同	湊町四丁目	同	十三年六月	六三	二六八	他	

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	職 女	工 種	原 動力
公益合資社	燧寸再製	雲井通二丁目	井上貞次郎	三十八年一月	七五	二一九	瓦	
森燧寸工場	安全燧寸	楠町六丁目	森時太郎	四十四年十一月	五	三八	他	
真燧合資社	同	水木通一丁目	瀧川儀作	三十四年一月	七五	二九一	瓦	
同	同	三川口町三丁目	同	上	六七	二八七	他	
同	同	荒田町三丁目	同	上	四三	一四六	他	
同	同	琴緒町五丁目	嘉一	四十一年九月	三四	一五八	他	
益進社	同	水木通七丁目	俵隆三	四十三年八月	四七	一一三		
俵燧寸工場	同	荒田町一丁目	秦銀兵衛	二十七年一月	二八	九一		
秦燧寸工場	同	筒井町	播磨喜三郎	三十七年二月	一六	二六	他	
鳴行社	同	南逆瀬川町二丁目	同	二十一年五月	一一	五五		
同	同	水木通四丁目	代表者 淺井嘉藏	二十九年二月	六一	一八五		
日本紙軸燧寸製造合資社	同	明治通二丁目	赤松幸太郎	三十八年八月	四三	六〇		
赤松燧寸製造所	黄燧寸	須佐野通四丁目	森井様太郎	年十月	三六	六九		
第二日進社	同	上庄通四丁目	小島種吉	四十三年四月	三四	七九		
小島燧寸第三分工場	同	中道通七丁目	田中幾太郎	年二月	三〇	七〇		

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工		種類	原動力
					男	女		
電氣雷管製造所	電氣、雷管	平野新田町	藤田利恒	明治四十四年三月	一	一六	電氣	一〇〇〇
神戶魚油株式會社	魚油及肥料	東尻池村	前田邦太郎	明治四十四年一月	一〇五	三〇	電氣	一〇〇〇
如田アレン油製造所	テレピン油、フエルトピツチ	五番町七丁目	畑田寅之助	三十九年四月	一〇	一	他	一〇〇〇
鈴木魚油工場	魚油	御崎村	鈴木よね	三十九年	一六	三	他	一〇〇
神戶ボイル油株式會社	ボイル油及塗料	池田村	大西米太郎	四十三年四月	六	一	汽	四〇
工藤商店	魚油	東尻池村	工藤藤吉	四十年十月	六	一	汽	四〇
吉金魚油製造所	魚油	同	吉田金之助	十六年	三三	一	汽	二〇〇
喜多組河内合名會社	木蠟	磯邊通三丁目	河内宇十郎	明治二十三年八月	三	一	汽	二〇
清水木蠟製造所	木蠟	濱邊通四丁目	清水惠助	四十三年十月	四	一	汽	一〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工		種類	原動力
					男	女		
網盛蠟燭製造所	洋蠟燭	東出町一丁目	網盛幾松	四十一年四月	三	六	汽	一
横田製藥所	鉛賣藥	生田町一丁目	横田孝史	明治十七年	二	三	石	一
多田化學製品所	顔料、サプス、鹽化、硫黄	上澤通六丁目	多田兵造	三十九年三月	七	二	石	一
柳田龍腦製造所	龍腦	脇濱町一丁目	柳田富士松	四十二年一月	七	一	石	一
矢澤商店	薄荷油、薄荷腦	八幡通一丁目	矢澤藤太郎	明治三十六年九月	一〇	九	汽	五〇
合名會社	精製樟腦	小野柄通三丁目	代表者 島山作四郎	明治四十四年一月	三	三	汽	二〇〇
朝日樟腦精製會社	同	神若通五丁目	代表者 竹田文吉	四十年四月	一八	一〇	汽	二五〇
神戶樟腦精製會社	同	八雲通六丁目	代表者 落合牛太郎	三十五年四月	一	一	汽	七五
合名會社	再製樟腦	旭通四丁目	代表者 鈴木よね	三十二年四月	四	五	汽	一

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	原動力
日本商業株式會社 樟腦精製工場 合名會社鈴木商店 筒井製臘所	精製樟腦 再製樟腦	雲井通五丁目 八雲通一丁目	代表者 西岡貞太郎 代表者 鈴木よね	明治三十六年二月 年十月	三七 一五	二八 汽	七〇
大正護謨 工業株式會社 合資 河路護謨製造所	護謨製品	東尻池町三丁目 日暮通一丁目	代表者 奧田七太郎 代表者 川瀬宗藏	大正元年九月 明治四十四年七月	三七 三〇	汽 汽	一六〇 五〇〇
合名 山田石鹼製造所 播磨石鹼製造所	石鹼	今和田新田 東川崎町五丁目	代表者 山田常七 播磨幸市郎	明治三十八年三月 同 十三年四月	五五 七	汽 他	四〇〇 一一〇
井上豆粕製造所 奧田合資會社 山一車田商店	大豆粕同油 菜種油同油 其他 再製雜粕 肥料	東尻池村 戶場町 新町	代表者 井上寅次郎 代表者 奧田代次郎 代表者 車田賢吉	明治三十八年十月 三十七年七月 大正二年二月	一五〇 四六	三〇 他 瓦	二〇〇〇 一〇〇〇 一六〇

四、飲食物工業

醸造		雜業	
工場名	主要製品	工場名	主要製品
有馬製肥所	粉末肥料	芥川工場	文具用糊
木全製肥所	同	今井線香工場	線香
	御所通一丁目 東尻池村	高木寫真館	寫真
	柴田松三 明治四十四年三月	津田工場	線香
	一〇七 一五〇 汽 瓦		
	九〇〇 二五〇		

醸造		醸造	
工場名	主要製品	工場名	主要製品
植田醬油醸造所	醬油	植田五郎吉	明酒
今井味噌醸造所	味噌	今井作太郎	天酒
	西宮内町		天文十三年
	八五		一
	他		一
	三		三

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
合資會社奥田商店	味噌	仲町四丁目	奥田由太郎	明治四十四年	男 八 女 二	汽	二五
臺灣製糖株式會社 神戸工場	精製糖	東尻池村	工場主任 中村第三	明治三十三年七月	男 一五四 女 一一	電機	二二八〇〇 二〇六〇〇
ヘリヤ商會	再製茶	江戸町 京町	代表者 シイ、エイチ、 ライトフット フランク、ユウジ ンケ、アーナルド	明治十四年四月 二十八年五月	男 三五 女 五五	汽	二六〇〇 二八〇〇
商店	精米	北長狭通七丁目 荒田町一丁目 奥平野村 出在家町 奥平野村	守屋九郎八 明石久吉 岡田甚之助 澤田清兵衛 上田平太郎	明治四十四年一月 二十年 四十五年一月 二十年一月 三十四年	男 四 女 一	他	二〇〇〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
福岡精米所	同	加納町三丁目	福岡清次郎	三十年二月	男 九 女 二	瓦	一〇〇〇
小松屋精米所	同	大開通二丁目	小松伊太郎	二十八年八月	男 八 女 一	瓦	六〇〇
福田水車場	同	奥平野村	福田和助	三十二年八月	男 五 女 一	水	一〇〇
小西水車場	同	再度筋	小西音吉	三十九年十月	男 五 女 一	水	一〇〇
佐々木商店	同	元町五丁目	佐々木定太郎	四十五年二月	男 五 女 一	他	一〇〇
木谷精米所	同	下山手通八丁目	木谷周藏	三十三年九月	男 一六 女 一	瓦	七〇〇
中野精米所	同	一番町一丁目	中野新太郎	年四月	男 七 女 一	水	七〇〇
播磨水車場	同	奥平野村	播磨由太郎	十六年	男 六 女 一	水	一〇〇
前福松水車場	同	同	前福松	三十八年五月	男 七 女 一	水	一〇〇
同	同	南本町四丁目	同	四十四年五月	男 七 女 一	他	一〇〇
福本精麥所	同	濱崎通四丁目	福本熊次郎	三十二年八月	男 三 女 一	汽	一〇〇
中央精米所	同	北長狭通八丁目	行方注連藏	四十三年	男 二 女 一	瓦	三〇〇
平田製餡工場	製粉	永澤町一丁目	平田太一郎	大正元年十月	男 五 女 一	瓦	四〇〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
内藤工場	餡粉	相生町三丁目	内藤兼次郎	明治四十四年一月	男 五	汽	三五〇〇
株式増田製粉所	小麦粉	東尻池村	河野啓二	四十一年八月	男 三	汽	一七〇〇
日本製粉株式會社	同	今出通三丁目	支配人 高木武	同 四十一年七月	男 一	汽	一〇〇〇
兵庫工場	同	今出在家町三丁目	社長 田村新吉	同 二十年十月	男 五	汽	一〇〇〇
日本精米製粉株式會社	小麦粉、精米				女 三	汽	六五〇〇
二見ラムネ製造所	サイラムネ	桶町六丁目	吉田熊吉	明治四十三年三月	男 三	汽	一〇〇
森山商會	同	仲町六丁目	代表者 森山重太郎	同 三十八年四月	男 四	汽	一五〇
神戸布引サイダー合資會社	同	雲井通八丁目	代表者 遠藤末太郎	同 四十三年四月	男 七	汽	一五〇
株式布引礦泉所	炭酸水	加納町一丁目	取締役 杉田一貫	同上	男 九	汽	一五〇
神港ラムネ製造所	ラムネ	三川口町一丁目	明上ますゑ	同 四十四年二月	男 二	汽	二〇〇
神戸北野礦泉合資會社	サイラムネ	中山手通一丁目	代表者 野村丑松	同 年七月	男 三	汽	二〇〇
淺井製水合資會社	水	荒田町四丁目	代表者 淺井俊三	明治四十三年四月	男 一	汽	二二五〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
鈴木工場	菓子種	松本通二丁目	鈴木幸吉	明治四十二年三月	男 五		
寒川工場	食麵	下山手通三丁目	寒川悦次郎	同 三十六年七月	男 五		
武本工場	同	御幸通七丁目	武本伍八	同 三十四年四月	男 六		
合資荒木精米所	餡	下澤通二丁目	代表者 岸本利吉	明治四十三年一月	男 三	他	一〇〇
永井工場	水	磯上通五丁目	永井庄太郎	同 四十三年一月	男 五	他	一〇〇
吉川工場	鉄、浮粉	仲町三丁目	吉川兵太郎	明治二十五年六月	男 一	他	一〇〇
横山工場	鉄	神明町	横山百太郎	同 三十五年三月	男 五	他	一〇〇
佐野蒟蒻工場	蒟蒻	切戸町	佐野喜代松	同 二十一年七月	男 四		
安井工場	ソーリス	荒田町三丁目	安井敬七郎	同 四十年三月	男 七		
濱野麥芽製造所	麥芽	駒ヶ林村	濱野巳之介	同 四十二年一月	男 八		



五、雜工業

印刷及製本

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	臺數	動力
神戸新聞社	新聞	榮町六丁目	横山岩吉	明治三十一年二月	五〇	一六	他	—	一〇〇
神戸又新日報社	同	同	渡邊 尙同	十七年五月	四三	二八	他	—	一〇〇
神戸經濟日報社	同	中道通三丁目	福島莊吉同	四十一年五月	一三	三	他	—	一〇〇
兵庫商業新報社	同	大開通三丁目	森本和市郎同	六年	五	—	他	—	一〇〇
兵神日報社	同	永澤町一丁目	菅沼 ます同	三十年一月	二〇	—	他	—	一〇〇
大久保製本所	製本	楠町五丁目	大久保與市同	三十八年五月	七	—	他	—	一〇〇
西村印刷所	帳簿	同 二丁目	西村太郎同	三十四年	四	—	他	—	一〇〇
横濱堂印刷所	印刷製本	三宮町一丁目	關基滿三郎同	四十四年六月	五	—	他	—	一〇〇
國進社	印刷製本	元町一丁目	建石音吉同	三十五年二月	一九	—	他	—	一〇〇
小寺製本所	同	北長狹通八丁目	小寺治郎吉同	二十五年七月	一〇	—	他	—	一〇〇
平野活版所	印刷	元町通六丁目	船橋喜之助同	三十六年八月	五	—	他	—	一〇〇

森井印刷所	商標印刷	須佐野通四丁目	森井隆一	同 四十四年七月	五	—	他	—	一〇〇
福音印刷合資會社	印刷製本	吾妻通三丁目	菅間徳次郎同	三十七年八月	二四	—	他	—	一〇〇
福山商標印刷所	商標印刷	三川口町二丁目	福山豊吉同	四十一年一月	一八	—	他	—	一〇〇
小松號松村印刷所	印刷	北長狹通三丁目	松村克巳同	四十年二月	一六	—	他	—	一〇〇
井上印刷所	商標印刷	永澤町三丁目	井上由松同	四十四年一月	二	—	他	—	一〇〇
日本機寸製造株式會社	同	新在家町	直木政之介同	四十年十月	三七	—	他	—	一〇〇
日本兵庫印刷部	同	水木通二丁目	小林吉右衛門同	三十六年一月	一九	—	他	—	一〇〇
日本商標印刷合資會社	同	多開通二丁目	西村岩太郎同	三十五年七月	一〇	—	他	—	一〇〇
西村印刷所	印刷	三宮町二丁目	西山鐵太郎同	三十三年七月	四	—	他	—	一〇〇
西山印刷所	同	花隈町	井村条三同	四十四年十月	四	—	他	—	一〇〇
井村印刷所	同	下澤通四丁目	木村房五郎同	三十六年八月	五	—	他	—	一〇〇
開明舎印刷所	商標印刷	大開通三丁目	岸本吉松同	四十年六月	一四	—	他	—	一〇〇
岸本印刷所	同	湊町四丁目	上山與作同	四十三年一月	三三	—	他	—	一〇〇
上山共進社	同	元町一丁目	兒玉彦四郎同	十八年六月	二六	—	他	—	一〇〇
兒玉歐文活版所	印刷	三宮町一丁目	後藤鉞次郎同	四十五年三月	一六	—	他	—	一〇〇
後藤製版印刷所	同								

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
吉川印刷所	印刷	橋通二丁目	吉川丑太郎	明治四十三年四月	七	一	他	〇五
成文舎	印刷製本	北長狭通八丁目	余吉郎	三十八年十月	六	一	他	〇五
神戸開國堂	印刷製本	加納町四丁目	笹岡貞太郎	十九年十月	三六	一	他	五八〇〇
松井印刷所	印刷	花隈町	松井梅藏	大正元年七月	五	一	他	〇五
柴田印刷所	商標印刷	宇治野町	柴田保藏	明治四十二年十月	一八	一	他	〇五
木村印刷所	印刷	下山手通三丁目	木村正善	三十八年七月	五	一	他	〇五
緑印刷所	印刷	宮内町	緑晋太郎	大正元年十月	六	一	他	〇五
光村印刷株式會社	印刷	再度筋	森本六兵衛	明治四十二年五月	二〇	一	他	三二〇
臼井印刷所	印刷	松本通二丁目	臼井朝市	四十年十月	六	一	他	〇五
村上印刷所	印刷	北長狭通五丁目	村上睦次	大正二年四月	一〇	一	他	〇五
國光堂	印刷	荒田町三丁目	池部普吉	明治三十七年四月	四	一	他	五四〇〇
明進社	印刷	古湊町一丁目	妹尾圭三	三十五年二月	二〇	一	他	二二〇〇
伊藤印刷所	印刷	三宮町三丁目	伊藤捨吉	二十八年十月	四	一	他	二二〇〇
眞光舎	印刷	湊町一丁目	田邊雄	年七月	六	一	他	一〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
神戸防水紙布製造所	防水紙布	大開通九丁目	池田久米	明治四十一年七月	一〇	一	他	三三〇
佐野紙函工場	紙函	元町三丁目	佐野儀一	三十九年五月	六	一	他	〇五
大前紙函工場	紙函	楠町一丁目	大前定太郎	四十四年	三	一	他	〇五
和田紙函工場	紙函	多開通四丁目	和田順治	四十二年	五	一	他	〇五
合名中井商店	屏風	三宮町一丁目	中井政吉	三十四年二月	一三	一	他	〇五
原井團扇工場	絹團扇	永澤町三丁目	原井惣吉	三十六年四月	二	一	他	〇五
神戶堂	印刷	元町三丁目	俵肇	三十年五月	八	一	他	三三〇
明輝社	印刷	三宮町一丁目	岩雄	二十一年二月	五六	一	他	三三〇
精成堂	印刷	北長狭通二丁目	馬場武義	四十年五月	八	一	他	〇五
小林印刷所	商標印刷	小野柄通一丁目	小林ひさ	四十五年三月	一三	一	他	〇五
布上印刷所	印刷	湊町三丁目	布上元吉	四十四年五月	一	一	他	〇五
大木印刷所	印刷	佐比江町	大木強次郎	四十三年五月	一五	一	他	〇五
アサ和歐印刷所	印刷	榮町六丁目	岡部健次郎	四十四年六月	七	一	他	〇五

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
					男	女	原動力
山下久助神戸支店	屏風	加納町四丁目	山下久助	明治三十七年一月	二二		
瀧波屏風工場		三宮町三丁目	瀧波乙馬	同 三十九年二月	六		
宇野製軸所	燐寸軸木	松原通三丁目	宇野大太郎	明治二十四年三月	一八		七〇
大塚製軸工場		小川通六丁目	大塚芳次	同 四十五年十月	二二		五〇
宮下合名會社製軸部		御崎村	宮下治之助	同 三十二年六月	二〇		
湯淺製軸所		東尻池町四丁目	湯淺仁平	同 四十年五月	二九		二〇〇
豐田製軸所		明和通二丁目	豐田信二	同 三十二年三月	七		七五
合名會社工業組製軸所		湊町三丁目	竹内圓次郎	明治四十三年一月	四二		二〇〇
高野製軸工場		正慶町	高野太三郎	同 四十四年一月	六		一〇〇
河合製軸所		住吉町三丁目	河合由太郎	不詳	一六		二二〇
竹内製軸所		芦原通四丁目	竹内善次郎	明治三十二年三月	二四		六〇
平井製軸所		明和通二丁目	平井松之助	不詳	一〇		五五〇

燐寸軸木

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
					男	女	原動力
今福製軸工場		明和通二丁目	今福淺吉	三十九年一月	二二		二〇〇
合名會社中村商店製軸工場		和山通二丁目	中村眞太郎	同 四十三年七月	三三		二〇〇
同		明和通二丁目	同上	同 四十四年十月	一八		一〇〇
鹽田製軸所		正慶町	鹽田善六	同 三十七年十月	二〇		一五〇
鹽田製軸工場		東尻池町三丁目	鹽田小三郎	同 大正二年四月	八		七五
中村製軸所		松原通六丁目	中村芳次郎	明治四十年一月	二二		五〇

燐寸小函及木地

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	動力
					男	女	原動力
真壁合資會社小函部	燐寸小函	塚本通六丁目	瀧川儀作	明治四十年二月	四二		一〇
小川小函製造所		小野柄通二丁目	小川由三郎	同 四十一年四月	五		一〇
生島燐寸函工場		小川通六丁目	生島菊太郎	同 二十四年九月	二五		一〇
日盛合名會社小函製造所		東尻池町四丁目	高井米太郎	同 四十五年四月	八		一〇
高岡小函製造所		湊町二丁目	高岡虎吉	同 二十九年三月	一一		一〇
同		同	高岡辰藏	同 四十一年七月	六		一〇
俵崎小函工場		下澤通六丁目	俵崎さよ	同 四十二年四月	三		一〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	女	原 種 類 數	馬 力
原田燐寸小函工場	燐寸小函	三川口町一丁目	原田 寅藏	明治二十二年二月	二二			
塚本小函木地製造所	燐寸木地	須佐野町五丁目	塚本 太吉	同 四十年七月	一〇			
谷澤小函製造所	燐寸小函	大開通七丁目	谷澤 健太郎	同 二十六年六月	一六			
安岡小函素地製造所	燐寸素地	明和通三丁目	安岡 兵吉	同 四十三年五月	一〇			
山本合資會社 燐寸小函製造所	燐寸小函	菅原通三丁目	山本 久太郎	同 四十五年四月	四五			
睦好燐寸小函製造所	同	御藏通一丁目	睦好 幸吉	同 三十年五月	二三			
平田小函製造所	同	中道通八丁目	平田 きく	同 四十一年十月	七			
木原燐寸小函及 素地製造所	同	三川口町二丁目	木原 彌三	同 十八年六月	九			
赤松燐寸小函 木地製造所	同	松原通七丁目	赤松 喜太郎	大正 二年七月	七			
小山素地製造所	燐寸素地	小川通三丁目	小山 喜代藏	明治三十三年	一八			
小林小函素地製造所	同	明和通三丁目	小林 久吉	同 四十四年四月	二二			
江口小函製造所	燐寸小函	塚本通五丁目	江口 源三郎	同 三十年一月	三〇			
吉川小函製造所	同	松原通二丁目	吉川 金藏	同 二十八年十月	二二			
川本小函製造所	同	東尻池町四丁目	川本 喜代松	同 三十三年十月	二七			

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	女	原 種 類 數	馬 力
福井燐寸木地工場	燐寸木地	和田山通一丁目	福井 加ね	同 四十五年四月	九			
田中小函工場	燐寸小函	小川通一丁目	田中 清次郎	同 三十年八月	七六			
原井工場	同	永澤町三丁目	原井 惣吉	同 四十二年二月	二四			
原井小函製造所	同	大開通二丁目	原井 龜吉	同 二十二年三月	二〇			
森本小函製造所	同	南邊瀬川町一丁目	森本 安松	同 三十五年七月	一〇			
森田小函製造所	同	大開通五丁目	森田 健一	同 二十年一月	九			
高井小函製造所	同	雲井通一丁目	高井 米太郎	同 三十一年五月	一〇			
泉谷小函製造所	燐寸小函	中道通五丁目	泉谷 政吉	同 四十一年七月	二二			
山名小函素地工場	燐寸木地	明和通一丁目	山名 虎五郎	同 四十五年六月	二七			
高田製竹所	竹材	日暮通二丁目	高田 安吉	明治二十七年十月	三			
長田製竹所	同	住吉通一丁目	長田 大介	同 十二年三月	五三			
齋藤式 人造黒竹製造所	人造黒竹	脇濱町三丁目	齋藤 儀四郎	同 四十一年七月	三			
大仁製竹工場	女竹	同	大仁 徳彌	大正元年九月	一			

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	原動力
神戶製竹株式会社	竹材	臨濱町三丁目	代表者 吉田平兵衛	明治四十四年五月	八	一	種類 原動力
金子商店	桶	北長狭通八丁目	金子波治	明治十八年三月	五	一	馬力
榎井商店	同	門口町	榎井虎千代	不詳	五	一	
福井箱製造所	箱	明治通三丁目	福井元三郎	明治四十五年二月	六	一	
小野折箱製造所	折箱	北通瀬川町	小野松之助	二年	八	三	
岡折箱製造所	同	鹿屋町	岡政太郎	二十三年五月	六	一	
箱彌三工場	折箱	三宮町一丁目	唄彌三郎	三十七年六月	五	一	
山田折箱製造所	折箱	大開通一丁目	山田熊吉	二十五年	七	一	
箱國工場	折箱	三宮町二丁目	上田國藏	二十七年	七	一	
清水木箱製造所	包裝箱	同三丁目	清水留吉	二十年	五	一	
薩摩兄弟商會	同	小野柄通三丁目	薩摩辨次郎	四十年一月	三	一	

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	原動力
同	上木箱	御幸通八丁目	同	上同	四十一年一月	三	
佐伯工場	包裝箱	海岸通五丁目	佐伯慶次郎	三十六年	六	一	
河南工場	木箱	三宮町三丁目	河南留三郎	四十三年六月	五	一	
大西荒箱製造所	包裝箱	下通九丁目	大西彌之助	三十七年五月	九	一	
定平箱製造所	茶箱	臨濱町三丁目	定平信藏	三十六年六月	二	一	汽
神戶木工株式会社	茶箱、茶袋	磯邊通一丁目	社長 今井善右衛門	三十六年四月	一〇	五	
今津箱製造所	同	荒田町二丁目	今津藤吉	三十七年十月	五	一	
高田外箱工場	同	羽坂通二丁目	高田源次郎	三十四年三月	七	一	
西田外箱工場	同	大開通二丁目	西田鶴松	四十年八月	八	一	
箱德工場	同	北長狭通三丁目	前田音藏	三十六年五月	一〇	一	
後藤噸箱製造所	噸箱	大開通二丁目	後藤巳之助	三十九年七月	九	一	他
前川箱製造所	同	北長狭通四丁目	前川松太郎	三十年	八	一	他
由良箱製造工場	包裝箱	三宮町一丁目	由良亥之助	大正二年十月	五	一	
宮部製箱所	同	大開通十丁目	宮部民三郎	明治四十三年一月	六	一	
瀧川製箱工場	同	同二丁目	瀧川辨三	三十六年四月	九	一	

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
村上製箱所	箱	中道通五丁目	村上 淺吉	明治四十二年五月	六	六		
中野製箱所	同	三宮町一丁目	中野 福三郎	四十一年	五	一		
宮下合名會社 製材部 製函部	包裝箱製材	御崎村	宮下 治之助	三十八年六月	一四六	二三		七二〇三
精谷噸箱製造所	マツチ噸箱	大開通七丁目	精谷 十郎	四十四年一月	六	一		
小川七商店	茶箱	磯邊通四丁目	小川 七三郎	十九年	一五			三七五
西川外箱製造所	外箱	下山手通八丁目	西川 虎太郎	不詳	五			一〇
池田製箱所	同	明和通四丁目	池田 彌久藏	明治四十一年七月	五			
關基製箱所	包裝箱	三宮町一丁目	關基 滿三郎	二十五年四月	五			
箱大工場	箱	同二丁目	上田 國藏	二十七年	五			
矢田工場	筆	小川通一丁目	矢田 久楠	明治三十八年二月	七			
中村工場	同	元町一丁目	中村 駒三郎	四十二年	四			
滿淵工場	具	北長換通四丁目	滿淵 善七	十三年	五			

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
富士原工場	物	上澤通三丁目	富士原 榮次郎	三十二年三月	六	六		一〇
福井工場	具	中山手通二丁目	福井 辰之助	四十二年九月	六			
清水工場	筆筒其他	入江通二丁目	清水 久太郎	二十八年	一七			
菊本工場	具	荒田町三丁目	菊本 善作	不詳	一〇			
成瀬工場	西洋家具	加納町五丁目	成瀬 菊太郎	明治二十年四月	六			
淺井工場	指物	今和田新田	淺井 國太郎	四十三年三月	五			
永田工場	西洋家具	加納町四丁目	永田 良介	四十一年一月	六			
真木工場	同	同二丁目	真木 新造	三十九年二月	二			五〇
富士工場	同	戶場町	富士 市松	二十三年五月	六			
溝淵工場	同	下山手通四丁目	溝淵 和太郎	十一年三月	九			
中島竹細工工場	竹細工	御幸通八丁目	中島 國三郎	明治三十四年三月	三			
島木材工場	木材	下山手通八丁目	島 正太	四十五年七月	八			
古茂田工場	盛物籠	琴緒町五丁目	古茂田 寛次郎	大正元年八月	四			一〇〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
梶井工場	竹籠	琴緒町四丁目	梶井武平	明治四十一年四月	一	一		
生駒工場	下駄	大開通四丁目	生駒千之丞	同 四十四年二月	七	二		
吉田商店	簾	磯上通三丁目	吉田平兵衛	同 二十年八月	一			
押田工場	竹傘柄	臨濱町二丁目	押田銑三	大正元年十月	二	二		
八木商店工場	簾	北本町四丁目	八木君平	明治二十年一月	一〇五	六五		
今福製棹所	櫓寸用棹	正慶町	今福淺吉	同 四十五年六月	三六	二〇	他	一〇〇
大前工場	竹簾	野田	大前孫左衛門	不詳	一	八		
福山屏風木地製造所	屏風木地	福通五丁目	福山福松	明治三十三年七月	六			
青柳屏風木地製造所	同	加納町二丁目	青柳萬次郎	同 三十八年三月	五		瓦	八〇
北野製簾所	簾	御幸通八丁目	北野國次郎	同 十八年二月	五			
河合製棹所	櫓寸棹	濱崎通三丁目	河合繁造	同 三十五年五月	一七		瓦	一三〇
磯川製板所	板	三宮町三丁目	磯川辰之助	同 四十二年二月				
◎製簾商會	竹簾	須佐野通五丁目	中澤利介	同 三十三年一月	五	二〇		
山口製簾所	同	北本町四丁目	山口とぎ	同 三十年二月	一	二五		

皮革製品		鳥毛製品		卸	
脇野製柄工場	柄	東川崎町四丁目	脇野正行	同 十一年三月	二
山田工場	屏風木地	琴緒町五丁目	山田政楠	同 三十四年三月	七
稻葉靴工場	靴	東出町三丁目	稻葉安吉	明治二十年二月	五
平野製靴工場	同	元町一丁目	平野永太郎	不詳	六
岸田製靴工場	同	相生町二丁目	岸田長之介	明治三十八年六月	五
圓尾刷毛製造所	刷毛	湊町一丁目	圓尾定吉	明治二十七年	五
大野貝卸製造所	貝卸	生田町二丁目	大野竹松	明治四十四年十月	五九
永井商會	同	三番町一丁目	永井儀三郎	大正二年十月	三七
川越貝卸製造所	同	旗塚通五丁目	川越治三郎	明治四十四年五月	一〇
東洋貝卸製造所	同	布引通三丁目	青柳太郎	同 四十五年三月	九
					四
					六
					七
					八
					九
					一〇
					一一
					一二
					一三
					一四
					一五
					一六
					一七
					一八
					一九
					二〇
					二一
					二二
					二三
					二四
					二五
					二六
					二七
					二八
					二九
					三〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	原動力
岸田貝卸製造所	貝卸	岸田重次	明治四十二年五月	男 一 女 一	石	—	—
井上麻真田製造所	麻真田	御幸通二丁目	井上整藏	明治四十三年十月	男 一 女 一	石	—
塚原麻真田製造所	麻真田	眞砂通一丁目	塚原芳造	同 四十四年七月	男 一 女 一	石	—
合名三宅組	同	加納町六丁目	代表者 三宅右一	同 四十五年一月	男 一 女 一	瓦	—
北野工場	同	濱邊通二丁目	北野政太郎	同 四十五年五月	男 一 女 一	瓦	—
森原工場	同	磯上通七丁目	森原一郎	同 四十四年七月	男 一 女 一	瓦	—
金子工場	同	森合町	金子祥一	大正元年十月	男 一 女 一	水	—
小川工場	同	中道通三丁目	小川五三治	同 年七月	男 一 女 一	他	—
眞鍋工場	同	荒田町三丁目	眞鍋伊助	同 年十月	男 一 女 一	他	—
田裏工場	同	八幡通四丁目	田裏虎太郎	同 年十二月	男 一 女 一	他	—
齋藤工場	同	藤濱町三丁目	齋藤利兵衛	明治四十五年一月	男 一 女 一	他	—
油谷工場	同	三宮町三丁目	油谷末次郎	大正元年八月	男 一 女 一	他	—

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	原動力
石井工場	麻真田	磯上通六丁目	石井十七吉	同 年八月	男 三 女 一	他	—
藤澤工場	同	加納町五丁目	藤澤逸太郎	同 年九月	男 一 女 一	他	—
上田工場	同	三川口町三丁目	上田萬次郎	明治四十三年八月	男 二 女 一	他	—
梶原工場	同	中道通八丁目	梶原爲次郎	大正元年八月	男 三 女 一	他	—
木村工場	同	入江通八丁目	木村惣太郎	同 年九月	男 二 女 一	他	—
カガシ製造合資会社	同	三宮町一丁目	代表者 嘉久助	明治四十五年六月	男 三 女 一	他	—
田中工場	玉	北長狭通三丁目	田中由松	明治三十七年一月	男 一 女 一	—	—
丸山工場	同	琴緒町三丁目	丸山松次郎	同 三十八年三月	男 一 女 一	—	—
松田工場	大理石	筒井町	松田孫造	同 四十一年五月	男 六 女 一	—	—
丸加合資会社	裝飾石	東川崎町一丁目	代表者 平木茂	同 四十五年七月	男 二 女 一	—	—
長谷川工場	大理石	日暮通五丁目	長谷川鐵次郎	同 四十四年四月	男 一 女 一	—	—
佐藤工場	浴槽及陳列臺	相生町四丁目	佐藤乙治	大正二年五月	男 六 女 一	—	—



工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職男	職女	種類	原動力
喜多二製綱所 <small>東京製綱株式会社 兵庫工場</small>	ロープ	吉田新田 入江通五丁目	喜多 妙 支店主任	明治三十八年七月	七	一	汽	二八〇
嘉山製綱所	同	吉田新田	山田 進 嘉山助次郎	同 二十年一月 三十九年七月	三〇	三	石	二八〇
蘭蓬麥稈經木真田								
三熊商店	疊	北逆瀬川町	三好重吉	明治四十四年六月	一五	一	汽	一〇〇
多井捺染工場	花蓬捺染	旗塚通六丁目	多井退助	同 年九月	九	六	汽	一〇〇
白木捺染工場	同	御幸通二丁目	白木淺次郎	大正元年四月	三	六	汽	一〇〇
池田捺染工場	同	生田町四丁目	池田吉次郎	明治四十一年	二五	一	汽	一〇〇
藤原捺染工場	同	日暮通六丁目	藤原浪次郎	同 四十四年七月	三	九	汽	一〇〇
苗村捺染工場	同	磯邊通三丁目	苗村徳次郎	同 三十一年五月	三	二	汽	一〇〇
岡田花蓬工場	森花蓬	神若通四丁目	岡田儀八郎	同 三十九年七月	二四	五	汽	一〇〇
三宅工場	花蓬信支袋	二宮町二丁目	三宅吟一	同 四十三年八月	六	二	汽	一〇〇
原捺染工場	花蓬捺染	磯上通三丁目	原 豊次郎	同 三十九年二月	三	一〇	汽	一〇〇

船具		雑	
加藤製帆工場	帆	岡 石粉製造所	石粉
喜多工場	同	大塚炭團工場	炭團
加藤十郎	四出町 匠町	大野工場	バスキング
妙同	同	日光社	バスベスタ バスキング チャン引防水布
加藤十郎	明治三十六年四月	堤 兵藏	同
妙同	同 二十五年四月	石森捺染工場	同
加藤十郎	同	島岡工場	多稈、真田
妙同	同	合資信盛組	經木モール
加藤十郎	同	田村工場	同
妙同	同	石森茂兵衛	大正元年十月
加藤十郎	同	島岡春吉	明治四十四年八月
妙同	同	代表者 赤木佐金	大正二年二月
加藤十郎	同	田村芳藏	明治三十八年一月
妙同	同	岡 豊次郎	大正元年七月
加藤十郎	同	大塚喜助	明治四十二年十月
妙同	同	大野理市	大正二年一月
加藤十郎	同	小林とみ	明治四十年七月
妙同	同	堤 兵藏	同 三十八年七月
加藤十郎	同	岡 豊次郎	大正元年七月
妙同	同	大塚喜助	明治四十二年十月
加藤十郎	同	大野理市	大正二年一月
妙同	同	小林とみ	明治四十年七月
加藤十郎	同	堤 兵藏	同 三十八年七月

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	女	工 種	原 動力
横山工場	網	二宮町二丁目	横山兵吉	大正二年一月	一	五		
木多調帯工場	調帯	四出町	木多半之介	明治四十四年七月	七	七		
阪東式調帯合資會社	調帯及パッキン	明和通二丁目	代表者 板並充造	同 三十九年四月	七	七		
鹽谷工場	石粉	奥平野村	鹽谷宗太郎	不詳	五	七	水	二五 三六 〇〇
石川工場	木綿袋	魚棚町	石川喜八郎	明治四十年一月	七	七	他	二〇
松原洋服店	洋服	北長狭通三丁目	松原小太郎	同 三十九年十月	八	七		
前田洋服店	洋服	下山手通一丁目	前田嘉藏	不詳	五	五		
島崎洋服店	洋服	元町二丁目	島崎虎吉		五	五		
田川洋服店	洋服	中山手通四丁目	田川安治	明治三十二年七月	五	五		
井本洋服店	洋服	山本通二丁目	井本數之助	同 四十五年	一	五		
赤羽洋服店	洋服	下山手通二丁目	赤羽是一	同 三十五年四月	五	五		
佐治洋服店	洋服	相生町三丁目	佐治順治	同 二十九年六月	七	七		
林洋服店	洋服	榮町六丁目	林九	同 三十二年	六	七		
柴田洋服店	洋服	元町三丁目	柴田音吉	同 十六年	二	六		

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職 男	女	工 種	原 動力
金子洋服店	洋服	元町五丁目	金子安太郎	同 四十三年四月	八	八		
松山洋服店	洋服	湊町一丁目	松山市松	同 二十五年	八	八		
眞鍋洋服店	洋服	橋通三丁目	眞鍋常太郎	同 三十七年五月	六	六		
和泰號洋服店	洋服	三宮町三丁目	和泰號	同 年三月	九	九		
通記號洋服店	洋服	下山手通三丁目	除春華	同 四十四年一月	八	八		
依藤洋服店	洋服	上橋通一丁目	依藤傳三郎	同 四十一年	六	六		
中島洋服店	洋服	相生町五丁目	中島繁太郎	同 四十二年	二	九		
森本洋服店	洋服	多聞通四丁目	森本米吉	同 二十七年	二	五		
長谷川洋服店	洋服	元町六丁目	長谷川利吉	同 三十年八月	二	二		
柴田洋服店	洋服	同 四丁目	柴田勇輝	同 二十三年	一〇	一〇		
關根洋服店	洋服	北長狭通六丁目	關根龜次	同 三十年	五	五		
西崎肥料工場	肥料	眞砂通二丁目	西崎喜三郎	同 四十三年	三	三		
鈴木工場	メリケン粉袋	梅ヶ香町一丁目	鈴木貞吉	同 四十年七月	四	三		
谷口工場	陶磁器着重	元町一丁目	谷口與十郎	同 二十五年	四〇	一〇		
松本工場	絲屑	濱邊通三丁目	松本好太郎	同 四十四年十月	一	一		一〇〇

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	原動力
津田工場	石粉	東尻池町八丁目	津田庄之助	明治三十七年七月	男 八	原	馬力 五八〇〇
齋藤工場	輸出竹、行李ノ漂白	藤濱町二丁目	齋藤儀四郎	四十一年七月	男 二	原	馬力 六〇〇
大倉工場	園繪、風景	湊町二丁目	大倉勇造	同 四十三年七月	男 七	原	馬力 一〇〇

六、特別工業

工場名	主要製品	所在地	工場主名	創業年月	職工	種類	原動力
神戸電氣株式會社 葦合發電所	電氣	藤濱町二丁目	社長 内村直俊	明治四十年一月	男 二七	原	馬力 二〇〇〇
神戸電氣株式會社 湊川發電所	電氣	西尻池村	同 上	大正元年九月	男 三三	原	馬力 二〇〇〇
瓦斯	瓦斯、コークス	西尻池村	社長 松方幸次郎	大正二年四月	男 三六	原	馬力 三〇〇〇
神戸瓦斯株式會社 西製鐵所	其他	北本町二丁目	同 上	明治三十九年六月	男 五五	原	馬力 三三〇〇

七、官立工業

工場名	主要製品	所在地	職工	種類	原動力
神戸監獄工場	雜品	石井村	男 九七六	原	馬力 二八七〇〇
鐵道院神戸工場	鐵道車輛及線路用品	東川崎町	男 一、一五六	原	馬力 二八七〇〇
同 神戸倉庫印刷所	印刷物	濱崎通三丁目	男 二九	原	馬力 一〇〇
同 應取工場	鐵道用品	野田村	男 四一	原	馬力 一〇〇
同 總局	精製樟腦	雲井通四丁目	男 五六	原	馬力 二八〇

八、工業會社

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	總額	拂込額	諸積立及準備金	社債金	社長及代表者
株式會社 川崎造船所	造船及諸機械	東川崎町二丁目	明治二十九年十月	一〇,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	松方幸次郎
株式會社 石原造船所	造船	同 三丁目	同 四十四年八月	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	石原紋次郎
株式會社 宮永鐵工所	造船及諸機械	東出町三丁目	同 四十二年六月	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	宮永芳藏
株式會社 三菱會社	同	和田崎通三丁目	同 三十八年七月	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	杉谷安一

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	資本額	拂込額	請積立及準備金	社債金	社長又ハ代表者
會社大森商會	車輛	北本町六丁目	明治四十五年四月	10,000	10,000			大森喜作
日本自轉車株式會社	自轉車リム	南本町三丁目	大正元年三月	100,000	100,000			福井庄次郎
神戶鍍金合資會社	ニツケル鍍金	八幡通五丁目	同	10,000	10,000			田中忠三郎
會社關西工作所	諸機械	梅ヶ香町二丁目	明治四十五年三月	10,000	10,000			木全由三郎
神戶鐵工株式會社	同	須佐野通五丁目	同	10,000	10,000			高橋爲久
株式神戶製鋼所	同	臨濱町一丁目	同	1,000,000	1,000,000			黒川勇熊
會社森田鐵工所	同	東出町一丁目	同	1,000,000	1,000,000			森田寅之助
日本農具製造株式會社	農具	菅原町三丁目	同	250,000	250,000			菅原 照
岡本鐵工合資會社	屬具	東出町二丁目	同	250,000	250,000			田中源之助
會社窪田商店	磁器、食器	八雲通一丁目	同	30,000	30,000			石川明治
會社神戶製紙所	紙	旭通一丁目	同	30,000	30,000			大島重右衛門
日本燧寸製造株式會社	安全燧寸	荒田町二丁目	同	1,000,000	1,000,000			直木政之介
良燧合資會社	同	水木通一丁目	同	400,000	400,000			瀧川儀作
日進合名會社	同	旭通二丁目	同	400,000	400,000			陳源來

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	資本額	拂込額	請積立及準備金	社債金	社長又ハ代表者
公益合資會社	同	雲井通二丁目	同	100,000	100,000			井上貞次郎
日本紙軸燧寸製造株式會社	同	水木通四丁目	同	10,000	10,000			淺井嘉藏
神戶ボイル油株式會社	ボイル油	池田村	同	100,000	100,000			大西米太郎
橫濱魚油株式會社	魚油及肥料	東尻池村	同	1,000,000	650,000	100,000		前田邦太郎
喜多組河内合名社會	木蠟	磯邊通三丁目	同	10,000	10,000			河内字十郎
合資會社精製	精製樟腦	小野柄通三丁目	同	70,000	70,000			島山作四郎
朝日樟腦精製株式會社	同	神若通五丁目	同	50,000	50,000			竹田文吉
神戶樟腦精製株式會社	同	八雲通六丁目	同	40,000	40,000			落合牛太郎
合名鈴木商店	樟腦、薄荷、魚油、精製	榮町通三丁目	同	50,000	50,000			鈴木 貞
日本商業株式會社	精製樟腦	雲井通五丁目	同	50,000	50,000			西岡貞次郎
大正護謨工業株式會社	護謨	東尻池町三丁目	同	50,000	25,000	25,000		奧田七太郎
會社河路護謨製造所	同	日暮通一丁目	同	10,000	10,000			川瀬宗藏
會社山田石鹼製造所	石鹼	今和田新田	同	10,000	10,000			山田常七
奧田合資會社	再製雜粕	戶場町	同	250,000	250,000			奧田代次郎
山一車田商店	肥料	新町	同	10,000	10,000			車田賢吉

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	資本金	準備金	社債金	社長又ハ代表者
合資 奧田商店	味噌	仲町四丁目	明治四十四年	10,000	10,000	—	奥田由太郎
臺灣製糖株式會社 神戶工場	精製糖	東尻池村	明治三十三年十月	2,550,000	1,650,000	1,700,000	中村第三 フラング、ユ ワシンク、フ アーナルド
合名 ヘリヤ商會	茶	京町	同十四年	1,000	1,000	—	鯉田千代松
經田栗林合資會社	穀	塚本通七丁目	同十四年十月	11,000	11,000	—	澤田清兵衛
日本米穀株式會社	同	出在家町	同二十年	500,000	300,000	—	行方法連藏
中央精米所	同	北長狹通八丁目	同四十三年	7,000	6,000	—	河野啓二
株式 增田製粉所	粉	東尻池村	同四十一年	500,000	500,000	110,000	高木武
日本製粉株式會社 兵庫工場	同	今出通三丁目	同四十年二月	1,550,000	1,150,000	400,000	田村新吉
日本精米製粉株式會社	同	今出在家町三丁目	同二十年十月	1,500,000	1,500,000	50,000	遠藤末太郎
神戶布引サイダール株式會社	同	雲井通八丁目	同四十三年四月	3,500	3,500	—	杉田一貫
株式 布引礦泉所	同	加納町一丁目	同四十三年	250,000	115,000	37,000	野村丑松
神戶北野礦泉株式會社	同	中山手通一丁目	同四十四年三月	3,000	3,000	—	淺井俊三
淺井製水合資會社	同	荒田町四丁目	同四十三年四月	86,000	86,000	3,200	岸本利吉
合資 荒木精米所	同	下澤通二丁目	同四十三年一月	3,000	3,000	—	—

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	資本金	準備金	社債金	社長又ハ代表者
福晉印刷合資會社 神戶支店	印刷	吾妻通三丁目	同三十七年八月	7,000	51,000	10,000	菅間徳次郎
光村印刷株式會社	同	再度筋	同四十二年五月	50,000	50,000	2,600	森本六兵衛
日本商標印刷株式會社	同	水木通二丁目	同三十六年一月	150,000	150,000	5,691	小林吉右衛門
合名 中井商店	屏風	三宮町二丁目	同三十四年二月	10,000	18,000	8,000	中井政吉
合名 工業組	燐寸軸木	湊町三丁目	同四十三年一月	5,000	5,000	—	竹内圓次郎
合名 中村商店	同	和山通三丁目	同四十五年七月	10,000	10,000	1,000	中村真太郎
山本合資會社	燐寸小函	菅原通三丁目	同四十五年四月	1,000	1,000	—	山本久太郎
日盛合資會社	同	東尻池町四丁目	同上	3,000	3,000	—	高井米太郎
神戶製竹株式會社	竹材	藤濱町三丁目	同四十四年五月	100,000	30,000	3,500	吉田平兵衛
神戶木工株式會社	箱	磯邊通一丁目	同三十六年四月	100,000	20,000	500	今井善右衛門
宮下合名會社	同軸木	御崎村	同三十八年六月	100,000	100,000	45,000	宮下治之介
合資 永井商會	同	三番町一丁目	同大正二年	80,000	80,000	—	永井儀三郎
合名 三宅組	同	加納町六丁目	同明治四十五年一月	15,000	15,000	—	三宅右一
丸加合資會社	同	三宮町一丁目	同四十五年六月	10,000	3,000	—	原嘉久助
丸加合資會社	同	東川崎町一丁目	同四十五年七月	4,000	4,000	—	平木茂一

會社名稱	製品種類	所在地	創立年月	資本金	拂込額	諸積立及準備金	社債金	社長又ハ代表者
旭鐵筋コンクリート株式會社	鐵筋、コンクリート	東尻池村	大正元年三月	六〇〇〇	二三五	—	—	橋本清藏
東京製綱株式會社	ロープ	入江通五丁目	明治二十年	三〇〇〇〇〇	一八七、〇〇〇	六〇〇〇〇	—	山田進
兵庫工場	經木モートル	三宮町一丁目	大正二年二月	六〇〇	六〇〇	一〇〇	—	赤木佐金治
會社信盛組	調帶、パツキン	明和通二丁目	明治三十九年四月	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇五	—	榎並充造
阪東式調帶合資會社	洋服	戶場町	同 四十三年五月	三〇〇〇	三〇〇〇	—	—	藤尾善太郎
會社丸善洋服店	電氣	臨濱町二丁目	同 四十年一月	一四八、〇〇〇	一一五、〇〇〇	六、〇〇〇	—	内村直俊
神戶電氣株式會社	瓦斯	相生町五丁目	同 三十一年七月	四七〇、〇〇〇	二二二、〇〇〇	一三五、四三	—	松方幸次郎

神戸市工場明細表終

大正三年十二月六日 印刷  
 大正三年十二月十四日發行

神戸市役所

印刷人 松村宗太郎  
 神戸市再度筋三十四番屋敷

印刷所 光村印刷株式會社  
 神戸市再度筋三十四番屋敷

142  
109

終